

運動部活動等における体罰・暴力 に関する調査報告書

はじめに

2013年1月に大阪市立高校の運動部指導教員による痛ましい体罰事案が発覚した。これを契機に、文部科学省は「運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議」を設置し、体罰や暴力の再発防止の検討を始めた。この協力者会議は短期間のうちに精力的に議論を進め、2013年の5月27日に「運動部活動での指導のガイドライン」を含めた調査研究報告書『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』を公表した。そして、文部科学省より本連合に対し、運動部の指導者養成に関する協力要請があり、本連合も運動部活動における指導や体罰の問題に対して積極的に取り組むことにした。

その一環として、大学生を対象とする全国調査を会員校の協力を得て共同で行ったが、この調査には2つの意義があった。まず、大学運動部での体罰や暴力等の人権侵害を根絶させるためには学生の意識や実態を把握することが必要であり、全国的な状況を把握することである。それに加えて会員校の個別状況を会員自らが把握し、人権侵害根絶に向けての行動を取れるようにすることであった。もう一つの意義は、専攻に偏らない調査である。これまでも、体育系大学や教育系大学での調査は行われてきた。しかし、学生が将来、教職に就いて運動部の顧問になったり、地域のスポーツ団体などの指導者となったりする可能性は体育系や教育系だけではない。したがって、体育系や教育系以外の学生にも学生時代からこの問題について正しく認識させておくことは重要である。体育系や教育系以外の学生も対象にした、しかも、全国規模の調査はこれまでに例がない。

本連合の呼びかけに対し、13大学、2短期大学から協力があり、合計3,957名の回答を得ることができた。集計結果の速報は本連合のホームページに2013年2月に掲載した。また、調査結果の一部は2014年2月に開催した大学体育研究フォーラムと同年8月に開催された日本体育学会でも報告した。本報告書は調査結果全体の報告書である。なお、会員校には会員校毎の集計結果を作成し、生データとともに送った。各校での今後の取り組みに期待したい。

公益社団法人 全国大学体育連合
専務理事 小林勝法

目次

1. 調査の目的
2. 調査の方法・対象
3. 調査の結果
 - 3-1: 全体集計
 - 3-1-1: 体罰経験の有無
 - 3-1-2: 体罰を受けた学校期
 - 3-1-3: 体罰の頻度
 - 3-1-4: 1回に行われる体罰・暴力の回数
 - 3-1-5: 体罰暴力に至った経緯
 - 3-1-6: 体罰を受けたその後どうなったか
 - 3-1-7: 運動部活動中の体罰・暴力は必要か
 - 3-1-7-1: 体罰経験有無別の分析
 - 3-1-8: 体罰・暴力が必要なのはどんな場面か
 - 3-1-9: 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか
 - 3-1-10: 種目別の分析
 - 3-2: 一般学生群
 - 3-2-1: 体罰経験の有無
 - 3-2-2: 体罰を受けた学校期
 - 3-2-3: 体罰の頻度
 - 3-2-4: 1回に行われる体罰・暴力の回数
 - 3-2-5: 体罰を受けたその後どうなったか
 - 3-2-6: 運動部活動中の体罰・暴力は必要か
 - 3-2-6-1: 体罰経験有無別の分析
 - 3-2-7: 体罰・暴力が必要なのはどんな場面か
 - 3-2-8: 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか
 - 3-3: 体育系専攻学生群
 - 3-3-1: 体罰経験の有無
 - 3-3-2: 体罰を受けた学校期
 - 3-3-3: 体罰の頻度
 - 3-3-4: 1回に行われる体罰・暴力の回数
 - 3-3-5: 体罰を受けたその後どうなったか
 - 3-3-6: 運動部活動中の体罰・暴力は必要か

3-3-6-1：体罰経験有無別の分析

3-3-7：体罰・暴力が必要なのはどんな場面か

3-3-8：将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか

4. 資料

集計表

共同研究参加大学募集要項

調査票

5. 協力校・協力者一覧

6. ワーキング・グループ委員一覧

1. 調査の目的

本調査の目的は、学校や社会において運動部活動の指導者となる可能性のある大学生の運動部活動における体罰・暴力の経験や意識を把握することであった。

2. 調査の方法・対象

本連合の会員校に共同研究への参加を募集したところ、全国の13大学・2短大から協力を得られた（「共同研究参加大学募集要項」は後掲する）。所在地は、首都圏が8大学、東海地方が2大学、近畿地方が1大学・1短大、九州地方が2大学・1短大であった。これらの会員校に在学する学生3,957名（男性2504、女性1,417、無回答36）から回答を得た。調査はアンケート用紙を用いて2013年9月1日から10月31日の期間に実施した。対象者の内訳は以下であった。

- 体育系学部・学科の学生：1,074名
- 体育系学部・学科以外の学生：2,883名
- 運動部所属経験あり：3,638名
- 運動部所属経験なし：318名

主な質問項目は以下であった。（詳しくは、後掲の「調査票」を参照されたい）

- ・運動部活動経験（種目名）
- ・性別
- ・将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか
- ・現在または過去の学校期において運動部活動中に体罰・暴力を振るわれたことがあるか
- ・体罰経験がある場合はその頻度と回数
- ・体罰や暴力に至る主な理由は何だったか
- ・体罰や暴力を受けたその後どうなったか
- ・指導上体罰や暴力が必要な場合とはどんな場合だと思うか

3. 調査の結果

全体集計（第1節）と一般学生群（第2節）、体育系専攻学生群（第3節）に分けて記す。

3-1：全体集計

3-1-1：体罰経験の有無

3,957名のうち、運動部活動経験者は3,638名で、そのうち、20.5%の学生が過去に運動部活動において体罰経験があると回答した（図1-1）。男女別に見ると、男性では22.0%、女性では13.1%が「体罰経験あり」と回答した（図1-2）。

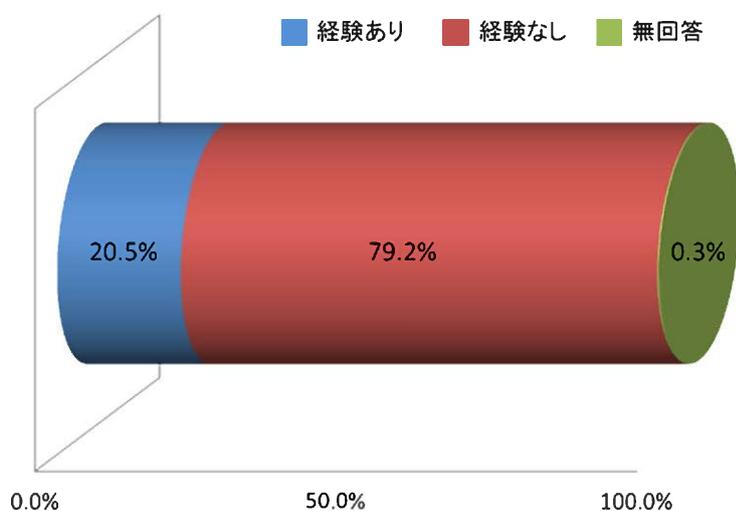


図1-1. 体罰経験の有無（n=3,638）

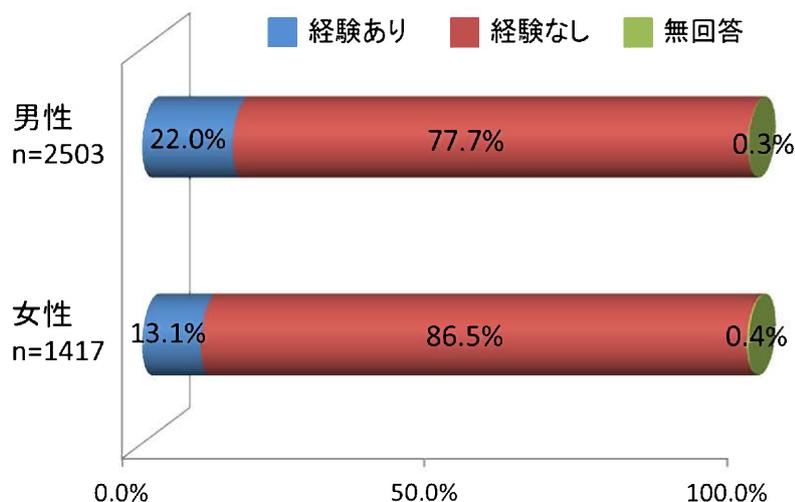


図1-2. 体罰経験の有無（男女別）

3-1-2：体罰を受けた学校期

「体罰を受けた経験がある」と回答した者に、体罰を受けた学校期はいつだったかを尋ねた(複数回答可)。その結果、中学校期での体罰経験が59.1%と最も多かった(図1-3)。男女別に見ても同様の傾向がみられた。(男女別グラフには性別無回答者を除外した割合を示している)(図1-4)。

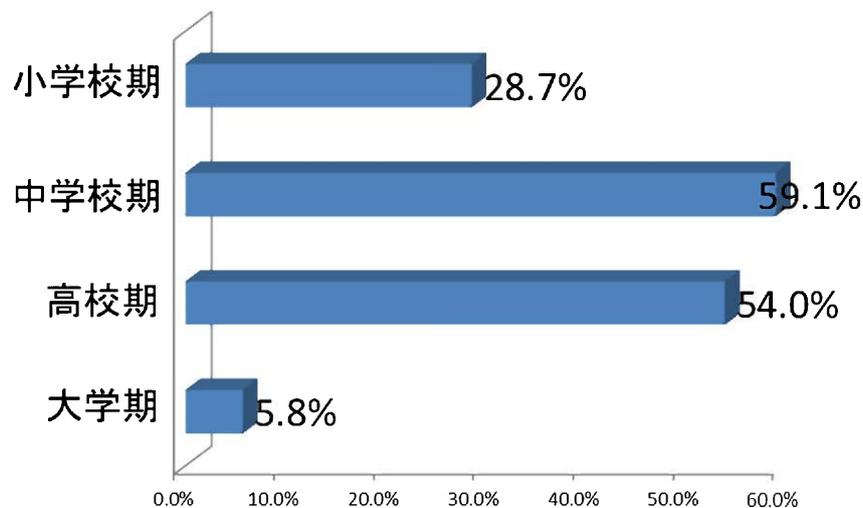


図1-3. 体罰を受けた学校期 (n=746)

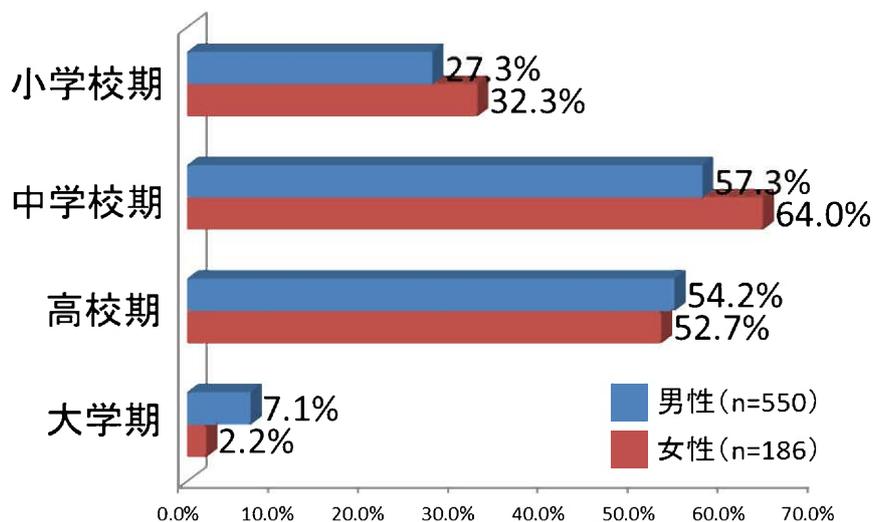


図1-4. 体罰を受けた学校期 (男女別)

3-1-3：体罰の頻度

体罰の頻度で最も多かったのは、「週に2～3回」（26.8%）であり、次いで「数ヶ月に1回くらい」（26.7%）、「月1回くらい」（22.9%）である。これらで全体の8割弱を占めていた。「ほぼ毎日」との回答も1割あった（図1-5）。男女別に見ると、男性では「数か月1回」への回答率が最も高かったが、女性では「週に2～3回」への回答率が最も高かった（図1-6）。

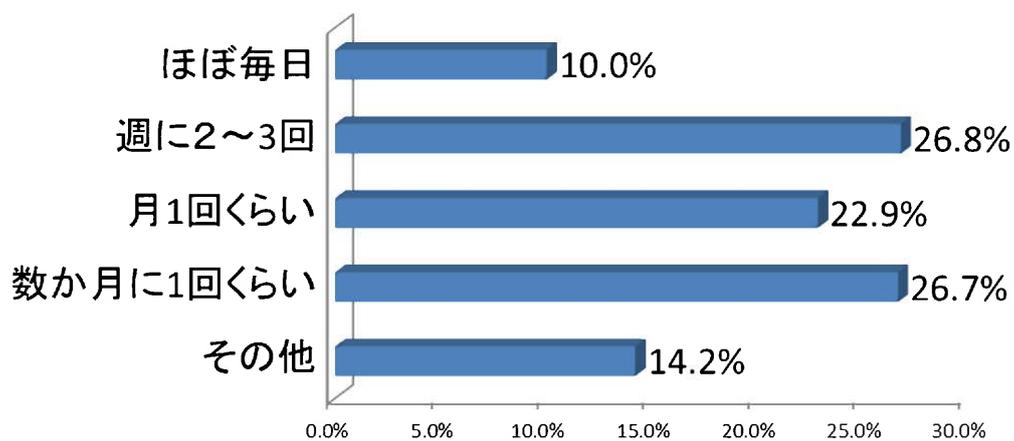


図1-5. 体罰の頻度 (n=738)

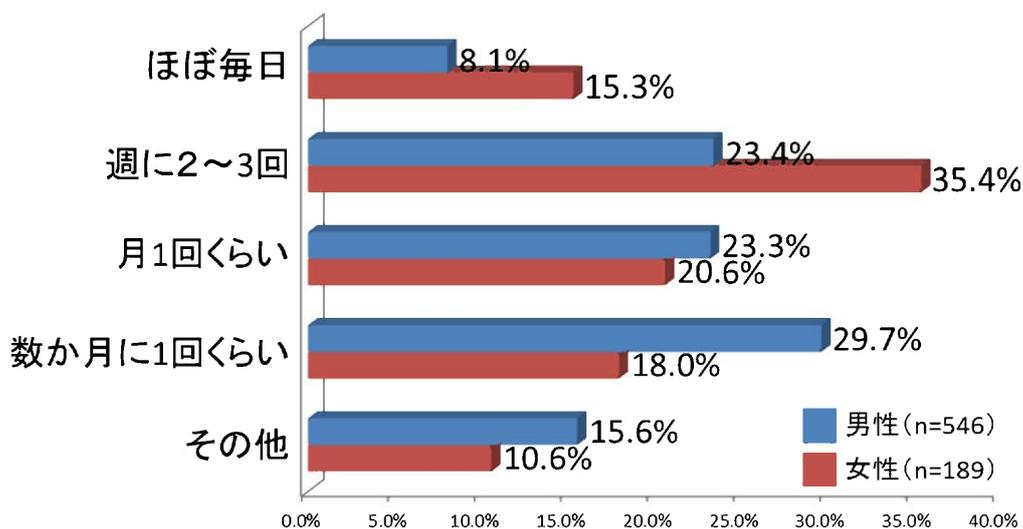


図1-6. 体罰の頻度 (男女別)

3-1-4：1回に行われる体罰・暴力の回数

1回に行われる体罰・暴力の回数を尋ねたところ「2～3回」への回答率が最も多く40.8%で、次いで「1回」(35.8%)であり、以上で全体の約8割である(図1-7)。男女別に見ると、男女とも「2～3回」への回答率が最も高かった(図1-8)。

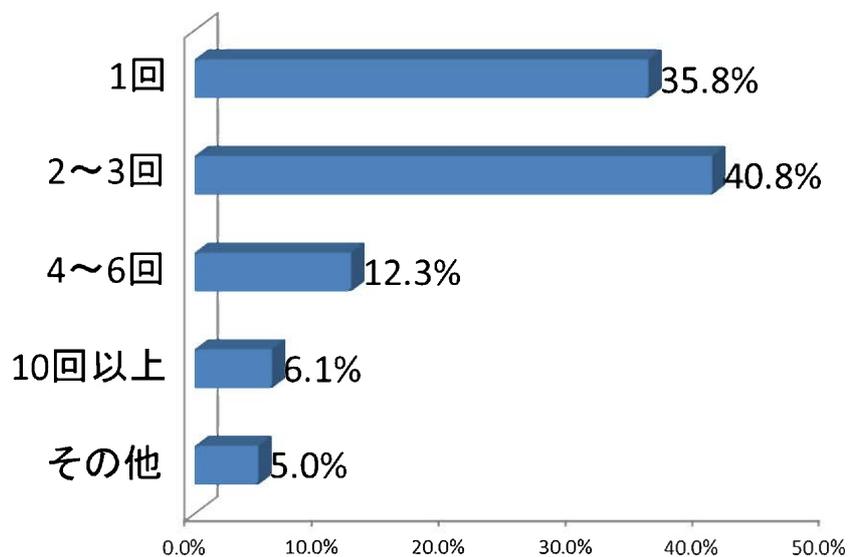


図1-7. 体罰の回数 (n=738)

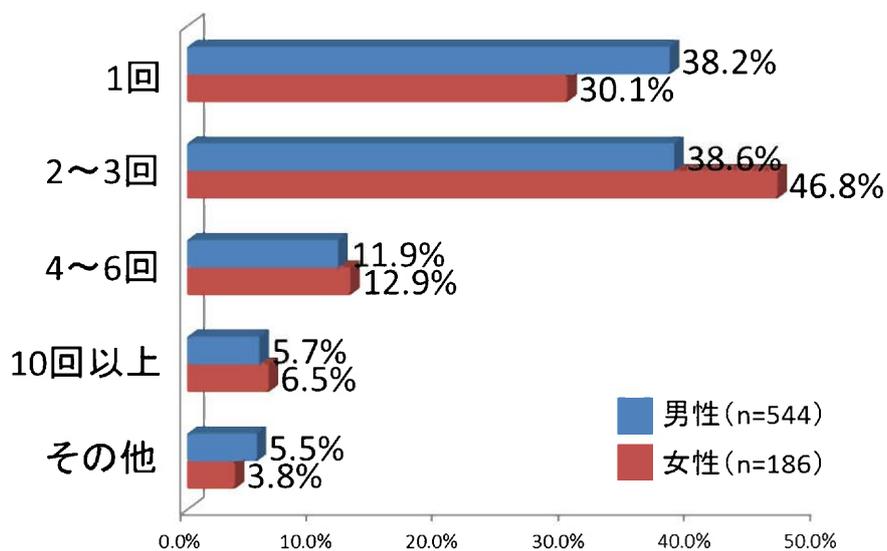


図1-8. 体罰の回数 (男女別)

3-1-5：体罰暴力に至った経緯

体罰・暴力を振るわれたことがあると答えた者に、「体罰・暴力に至る主な理由は何だったか」を自由記述で尋ねた。回答数は 555 名からあった。同じ内容のものをグルーピングした結果、以下のような結果となった。「ミスをした場合」(28.5%) が一番多く、続いて、「試合やプレーの成績や内容」(9.4%)、「自分が悪い」(9.0%)、「理不尽な理由」(7.6%) という結果となった (図 1-9)。

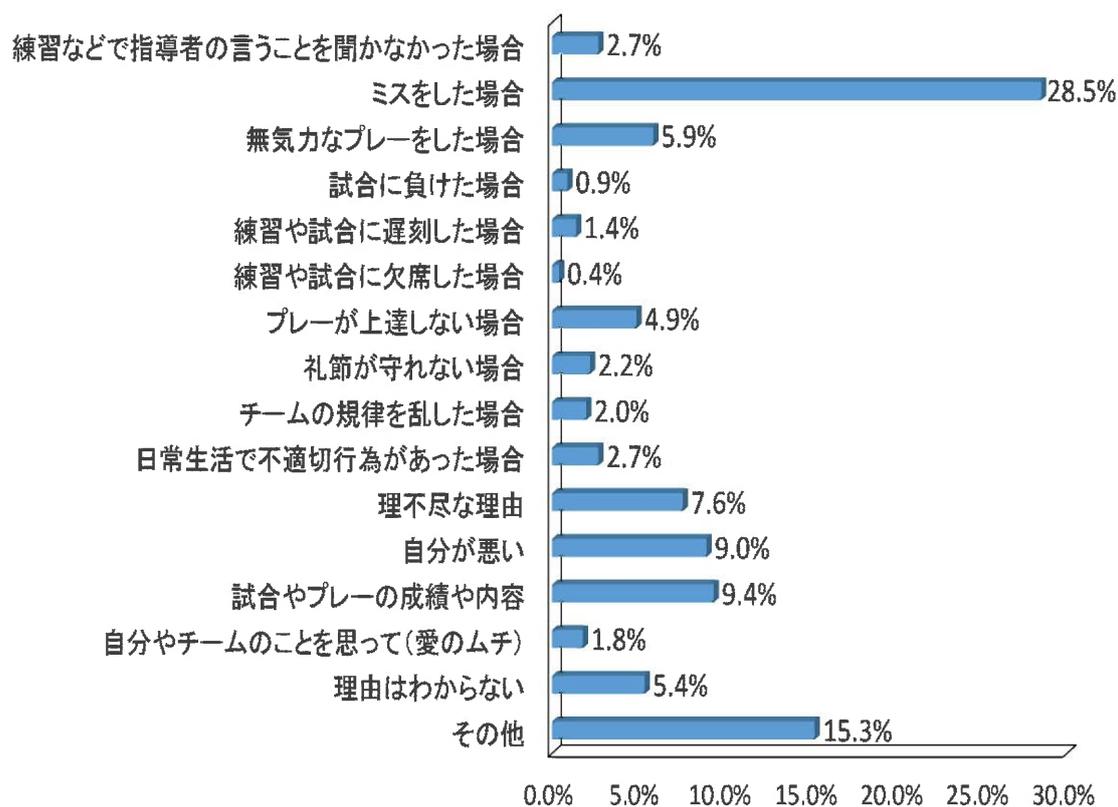


図 1-9. 体罰・暴力に至った経緯 (自由記述)

3-1-6：体罰を受けたその後どうなったか

「体罰を受けたその後」について回答を求めた（複数回答可）。その結果、「精神的に強くなった」（58.4%）への回答率が最も多かった一方で、35.4%が「反抗心を持った」としている（図 1-10）男女別に見ても、男女とも「精神的に強くなった」への回答率が高く。過去に受けた体罰について肯定的な意見が多かった（図 1-11）。

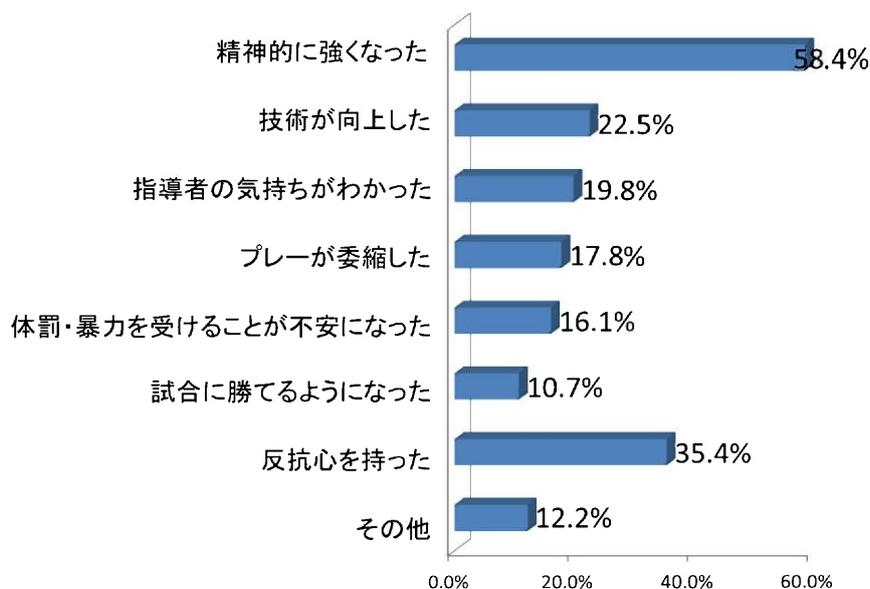


図 1-10. 体罰を受けたその後どうなったか（複数回答可／n=738）

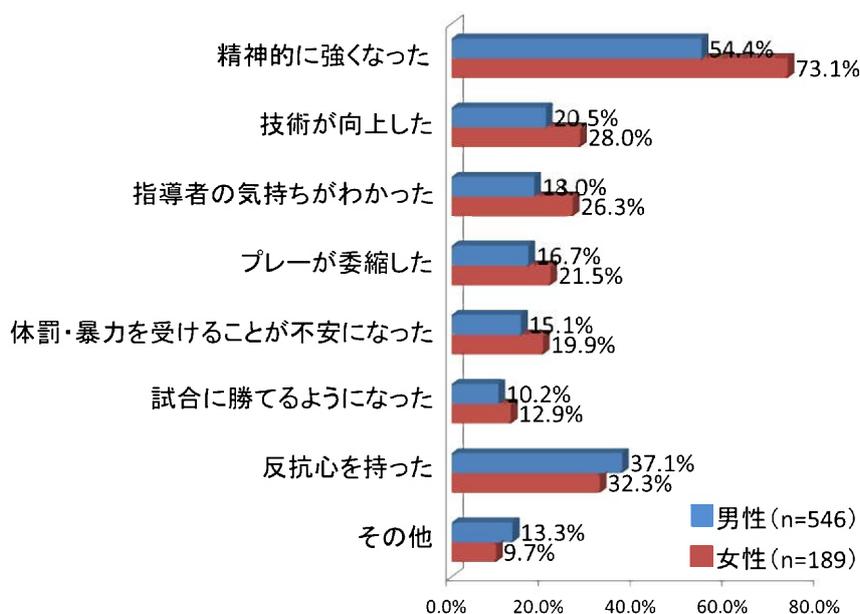


図 1-11. 体罰を受けたその後どうなったか（男女別）

3-1-7：運動部活動中の体罰・暴力は必要か

「運動部活動中の体罰・暴力の必要有無」については、「必要だとは思わない」への回答が多かった（57.3%）一方で、40.9%が「必要な場合がある」と考えていることが示された（図 1-12）。男女別に見ても、「不要」と回答する割合が高かった（図 1-13）。

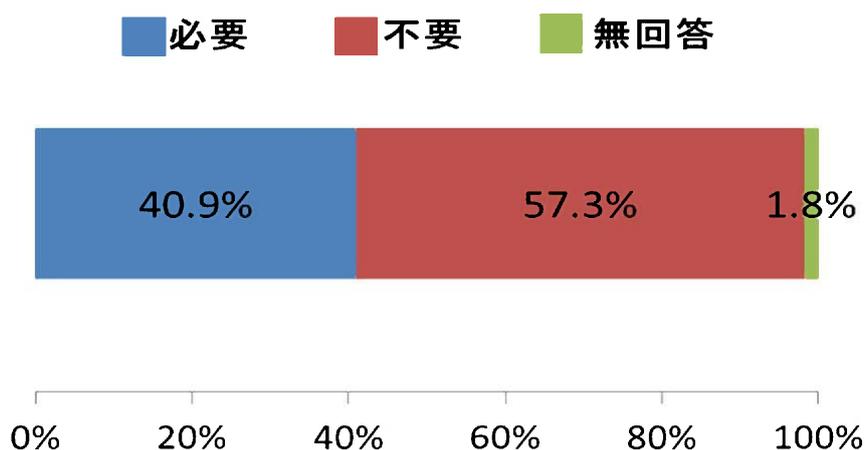


図 1-12. 体罰・暴力の必要有無（n=3,638）

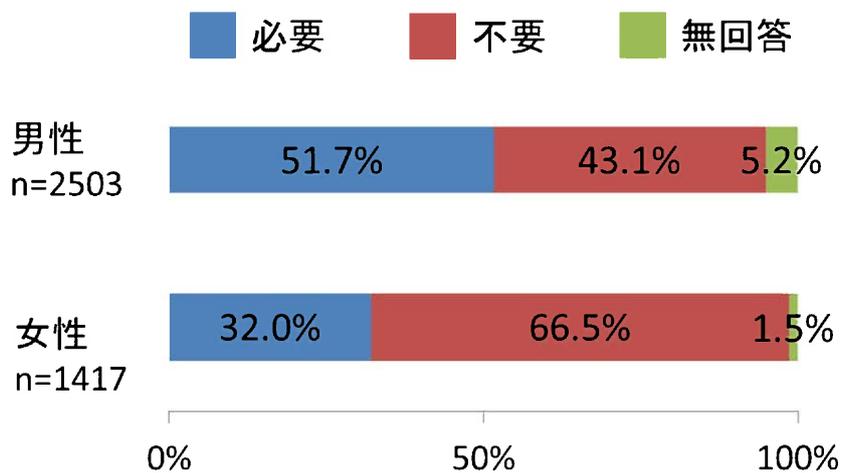


図 1-13. 体罰・暴力の必要有無（男女別）

3-1-7-1：体罰経験有無別の分析

「運動部活動中の体罰・暴力の必要有無」について、「体罰経験の有無」で比較したところ、体罰経験がある者の 57.8%が「体罰は必要」と回答したのに対して、体罰経験がない者では 61.8%が「不要」と回答した（図 1-14）。

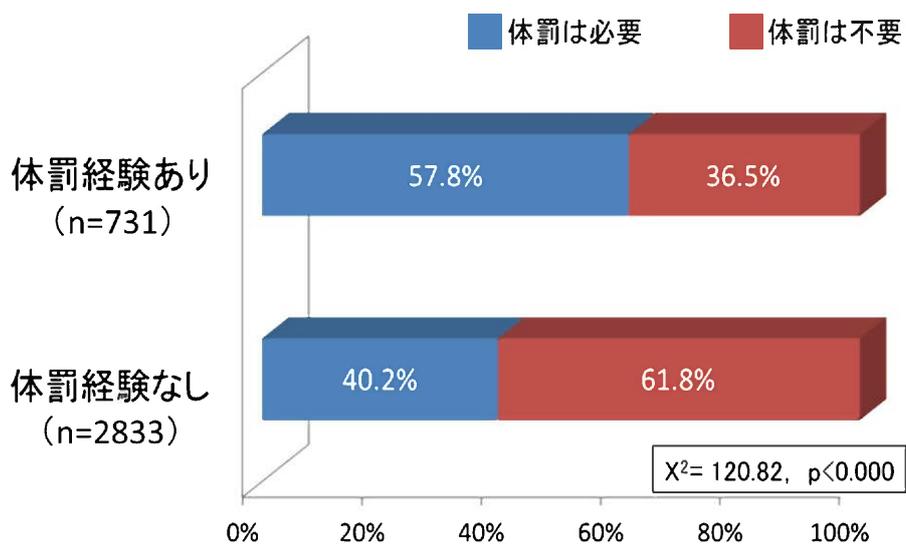


図 1-14. 体罰・暴力の必要有無（体罰経験有無別）

3-1-8：体罰・暴力が必要なのはどんな場面か

「指導上体罰・暴力が必要な場合とはどんな場合だと思いますか」（複数回答可）と質問したところ、「危険な行為をした場合」（39.3%）や「礼節が守れない場合」（29.5%）、「日常生活で不適切行為があった場合」（29.3%）、などへの回答率が高かった。

この設問については「運動部活動の経験が無い」学生（318名）にも質問した。その結果、28.3%（90名）が「体罰は場合によっては必要」と回答した。体罰が必要と考える具体的な場面としては、運動部活動経験者と同様に「危険な行為をした場合」（41.1%）や「日常生活で不適切行為があった場合」（33.3%）、「礼節が守れない場合」（32.2%）などへの回答率が高かった（図 1-15）。

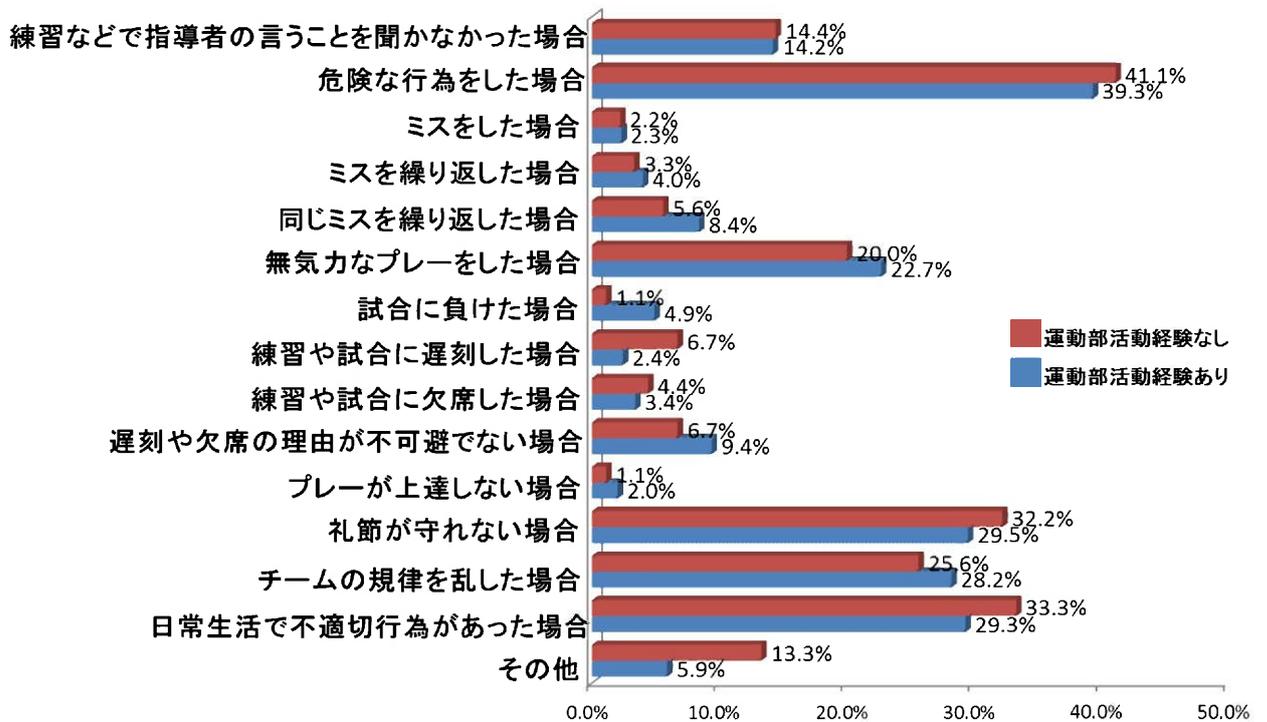


図 1-15. 体罰・暴力が必要なのはどんな場面か

3-1-9：将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか

運動部所属経験者に「将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか」を尋ねたところ、「あまり思わない」が36.0%で、「全く思わない」は33.2%と回答率が高かった(図1-16)。男女別にみても、同様の傾向であった(図1-17)。

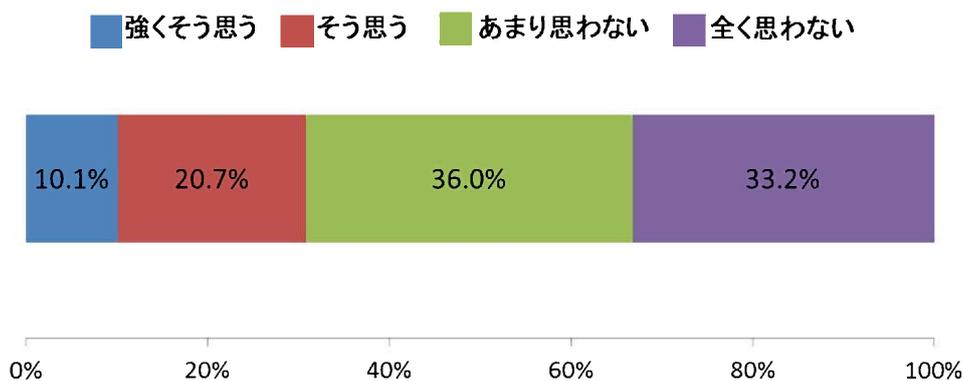


図1-16. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか

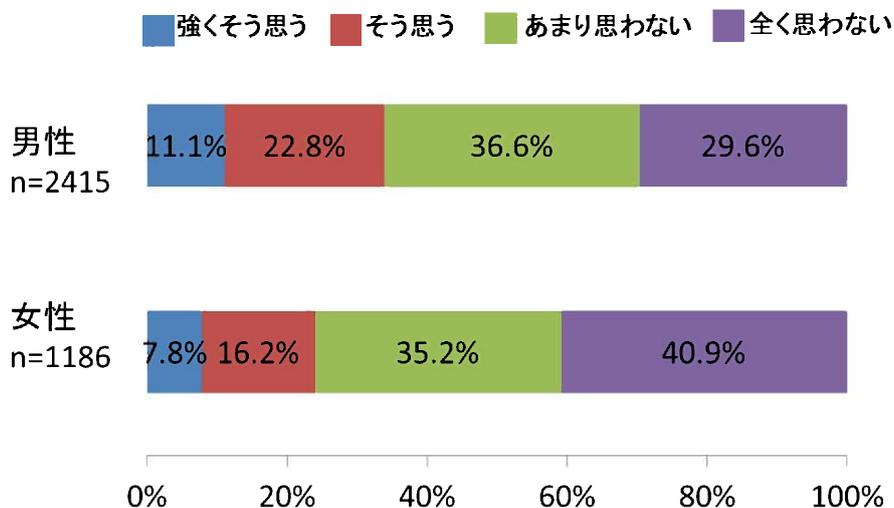


図1-17. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか(男女別)

一方、「体罰経験有無別」に「将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか」を尋ねたところ、『体罰経験がある者ほど将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたい』と回答した（図 1-18）。

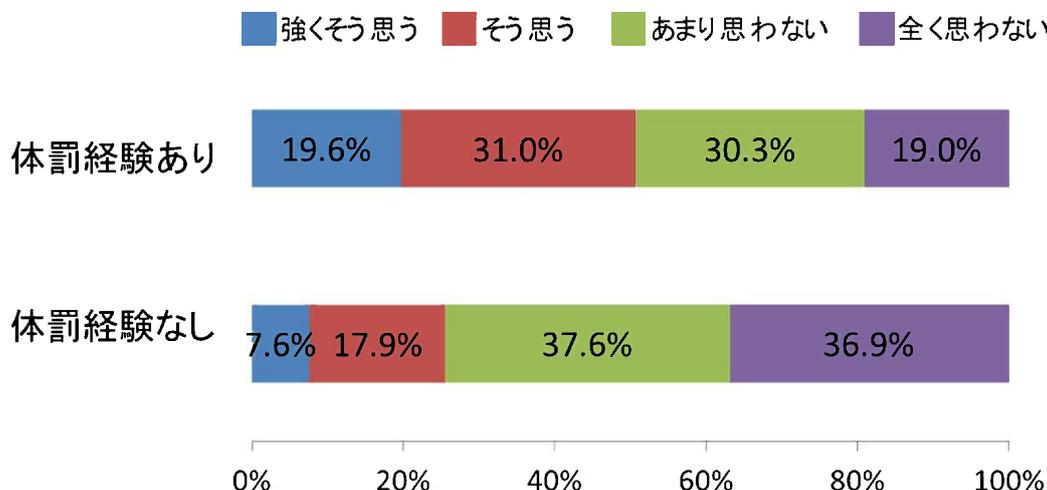


図 1-18. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか（体罰経験有無別）

3-1-10：種目別の分析

学校期毎に種目別の体罰経験率を求めた（図 1-19）。体罰経験率は、回答者数（解析対象者数）に対する体罰経験者数の割合（％）として求めた。その結果、体罰経験率は男女とも小学生、中学生、高校生と段間的に上昇し、大学生で最も低率であった。またテニスやバドミントンなどのネット型競技では低率であったが、バレーボールだけは例外的に体罰経験率が高かった（小学生男女、中学生女性）。また格闘技である柔道は小学生男女、中学生女性、高校生男女、大学生男性で高率であった。なお、本調査では全てのスポーツ種目を対象とすることができなかったこと、種目間に大幅な人数の偏りがあったことから、種目毎の特徴と断定することはできないことを付言する。

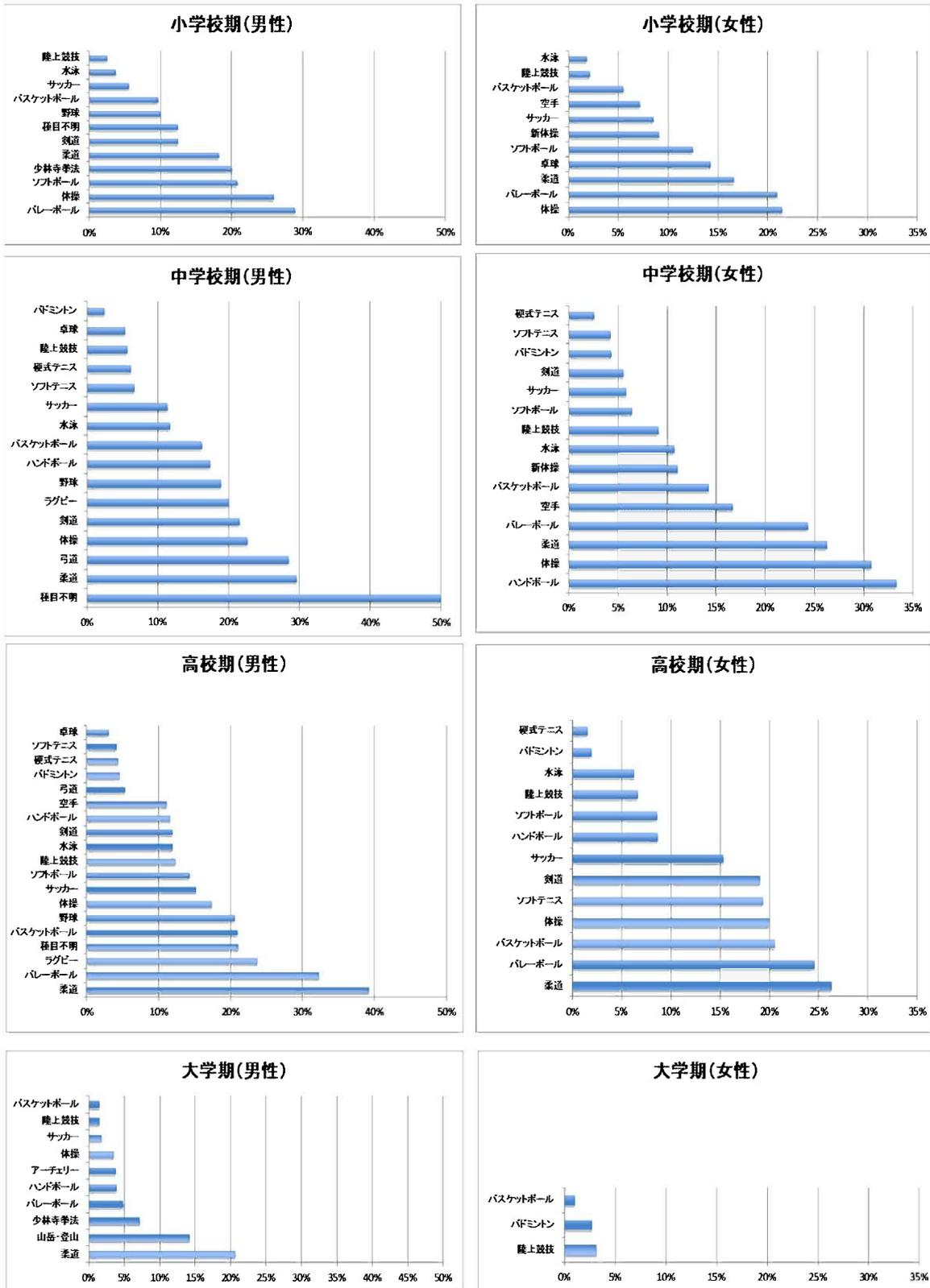


図 1-19. 各学校期における種目別体罰経験率

3-2：一般学生群

本章では、一般学生、すなわち、体育系学部・学科学生を除く学生を対象に、体罰にかかる調査結果をまとめた。分析対象とした大学は11大学・1短大の2,883人（男性1,729人、女性1,151人；性別無回答3人）の学生である。

3-2-1：体罰経験の有無

体罰経験の有無は、11.9%の学生が経験ありと回答し、およそ9割の学生が経験なしと回答していた（図2-1）。男女別では、体罰経験ありと回答したのは、男性が14.5%であるのに対し、女性では7.9%であった（図2-2）。

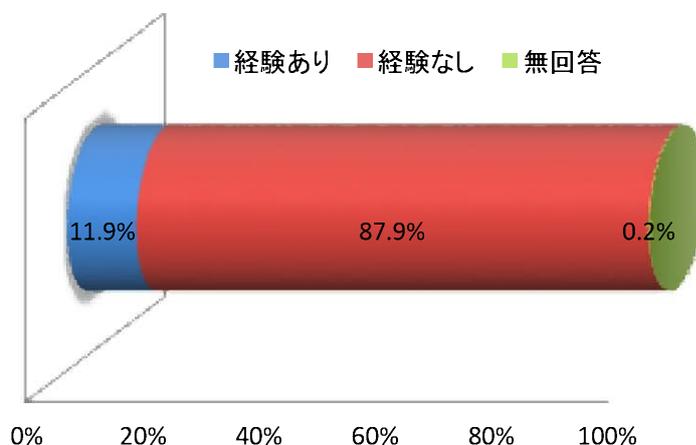


図2-1. 体罰経験の有無 (n=2883)

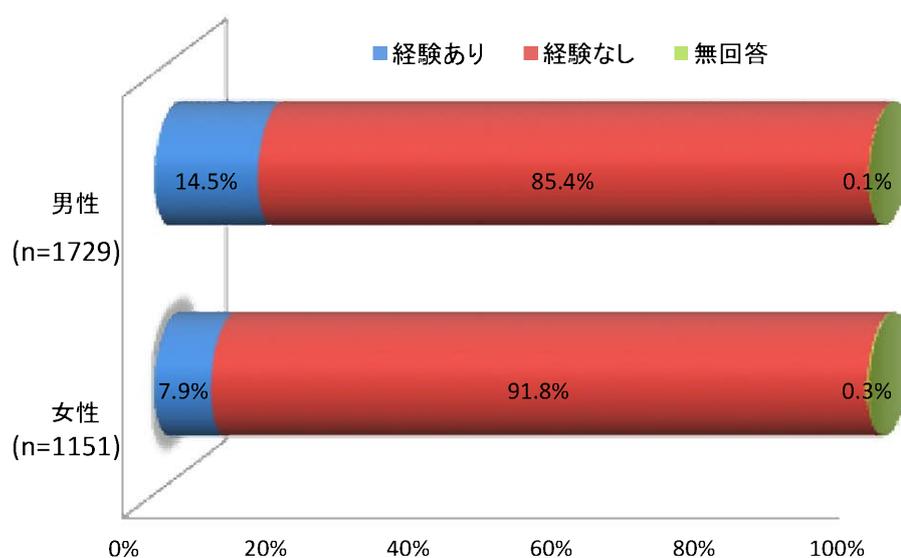


図2-2. 体罰経験の有無(男女別)

3-2-2：体罰を受けた学校期

「体罰を受けた経験がある」と回答した者に、体罰を受けた学校期はいつだったかを尋ねた（複数回答可）。その結果、小学校期が28.9%、中学校期が59.6%、高校期が48.2%、および大学期が1.8%となっており、中学校期で体罰を受けたと回答する学生が最も多かった（図2-3）。このような傾向は、男女別でも同様であった（図2-4）。

また、小学校期でもおよそ2割の学生が体罰の経験有りと回答しており、心身ともに未成熟かつ未発達な成長段階における体罰が成長過程に及ぼす影響が心配されるところである。なお、大学期ではほとんど体罰の経験が無いことが示された。

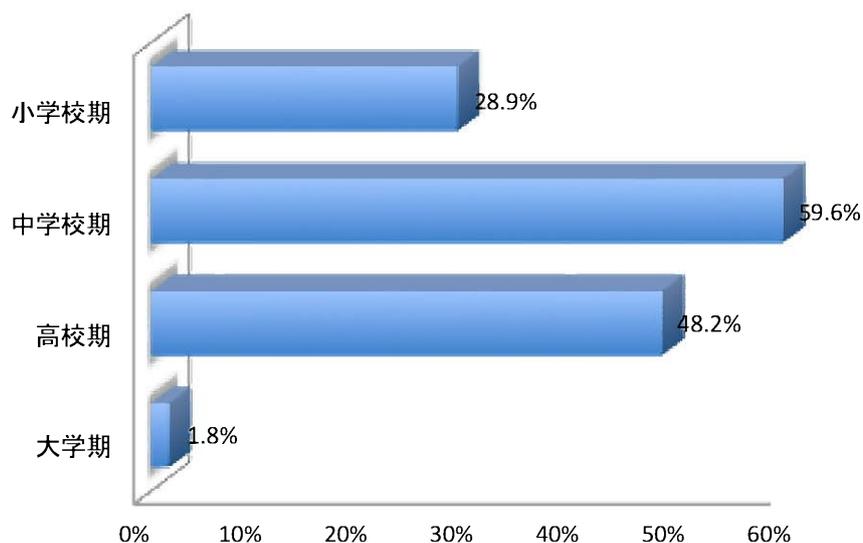


図2-3. 体罰を受けた学校期(複数回答可/n=475)

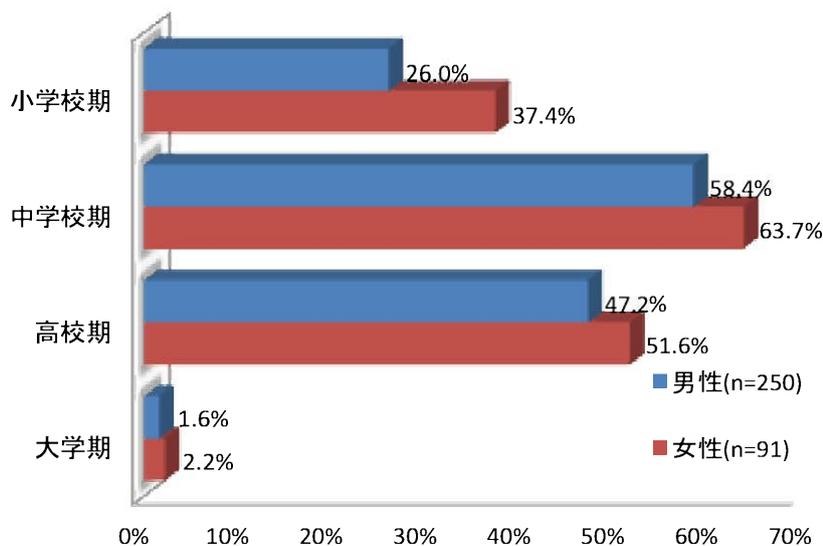


図2-4. 体罰を受けた学校期(男女別)

3-2-3：体罰の頻度

体罰の頻度で最も多かったのは、「週に2～3回」（28.1%）であり、次いで「数ヶ月に1回くらい」（24.6%）、「月1回くらい」（24.0%）である。これらで全体の8割弱を占めていた（図2-5）。男女別の体罰の頻度では、女性の「週に2～3回」が32.3%、全体（28.1%）および男性（26.6%）と比べてやや高い割合となっていた（図2-6）。

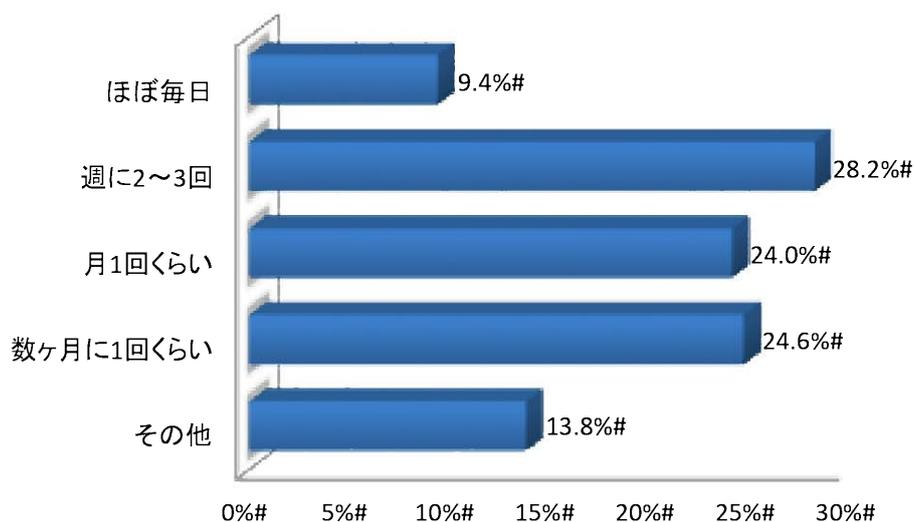


図2-5. 体罰の頻度 (n=341)

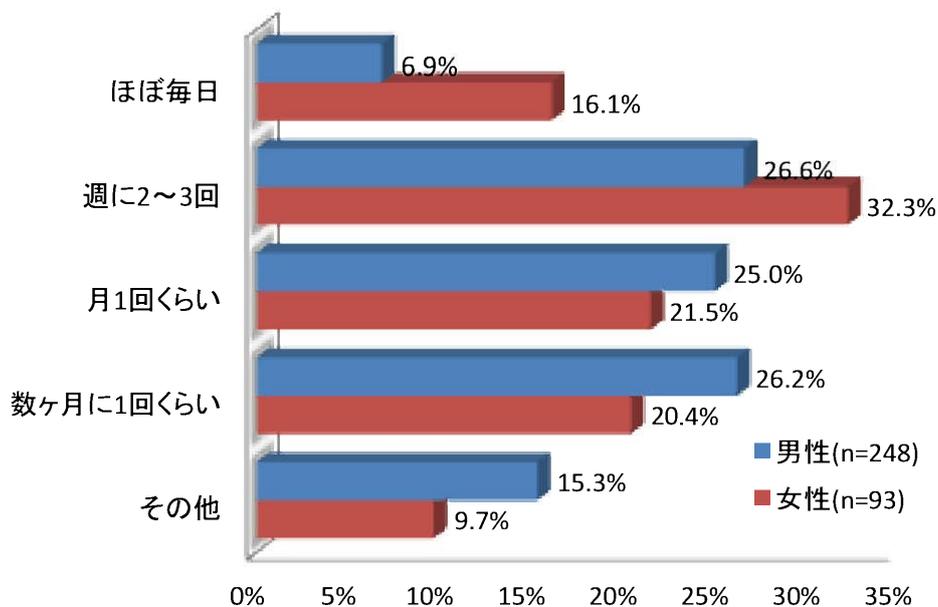


図2-6. 体罰の頻度(男女別)

3-2-4 : 1回に行われる体罰・暴力の回数

1回に行われる体罰・暴力の回数では、「1回」が最も多く（43.4%）、次いで「2～3回」（38.6%）であり、以上で全体の8割となっていた（図2-7）。男女別に見ると、女性の「4～6回」（16.5%）が、全体（8.8%）および男性（6.0%）と比べて高い割合であった（図2-8）。

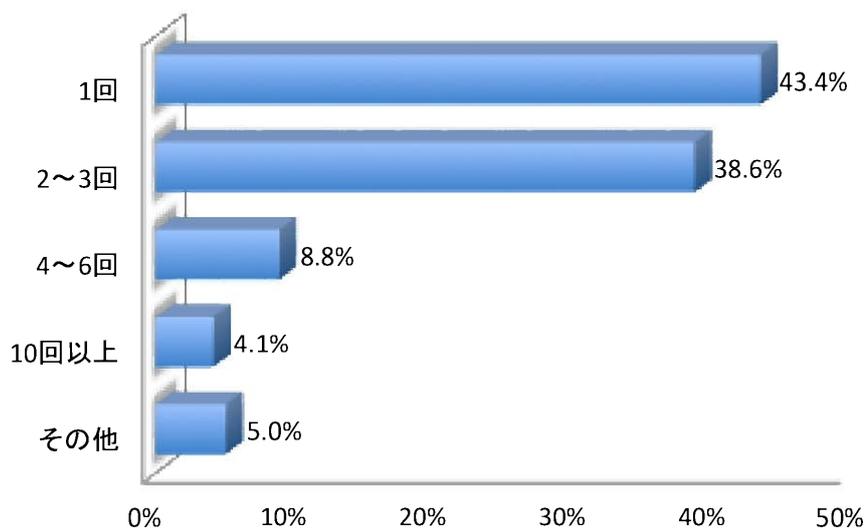


図2-7. 体罰の回数(n=339)

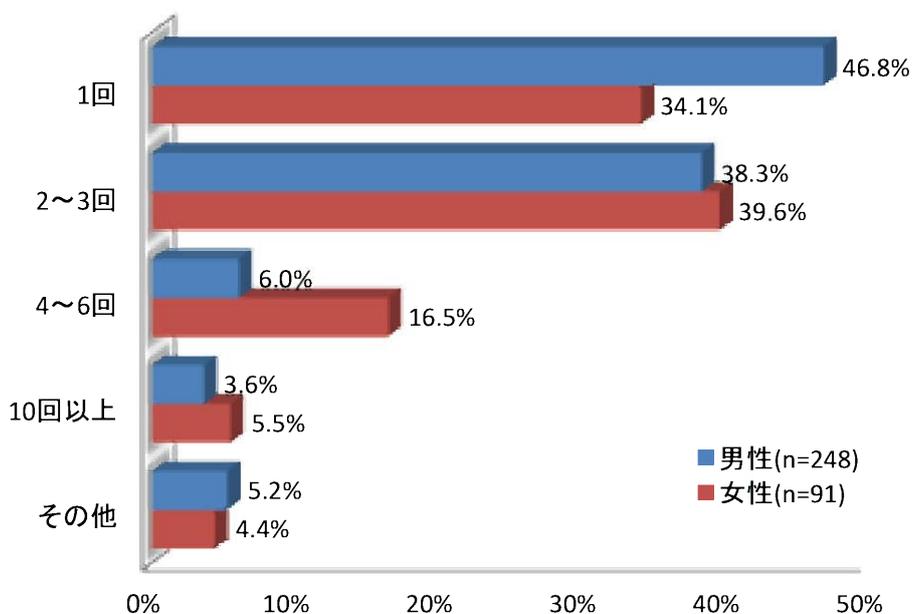


図2-8. 体罰の回数(男女別)

3-2-5：体罰を受けたその後どうなったか

「体罰を受けたその後」について回答を求めた（複数回答可）。その結果、「精神的に強くなった（61.4%）」とする回答が最も多かった一方で、40.4%が「反抗心を持った」としている（図2-9）。男女別に見てみると、男性で「反抗心を持った（41.6%）」とする学生が、全体（40.4%）および女性（37.4%）に比べてやや高い割合であった（図2-10）。

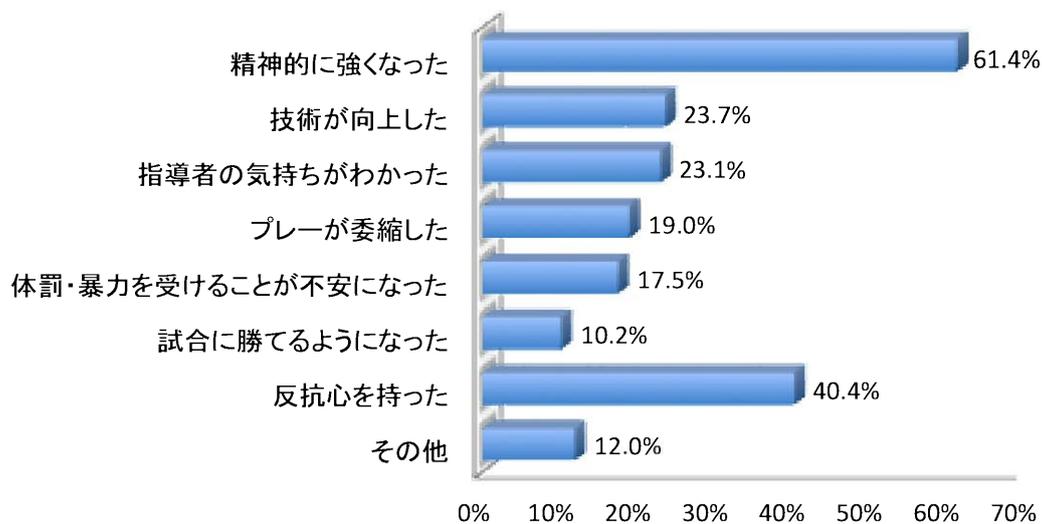


図2-9. 体罰を受けたその後どうなったか (n=342)

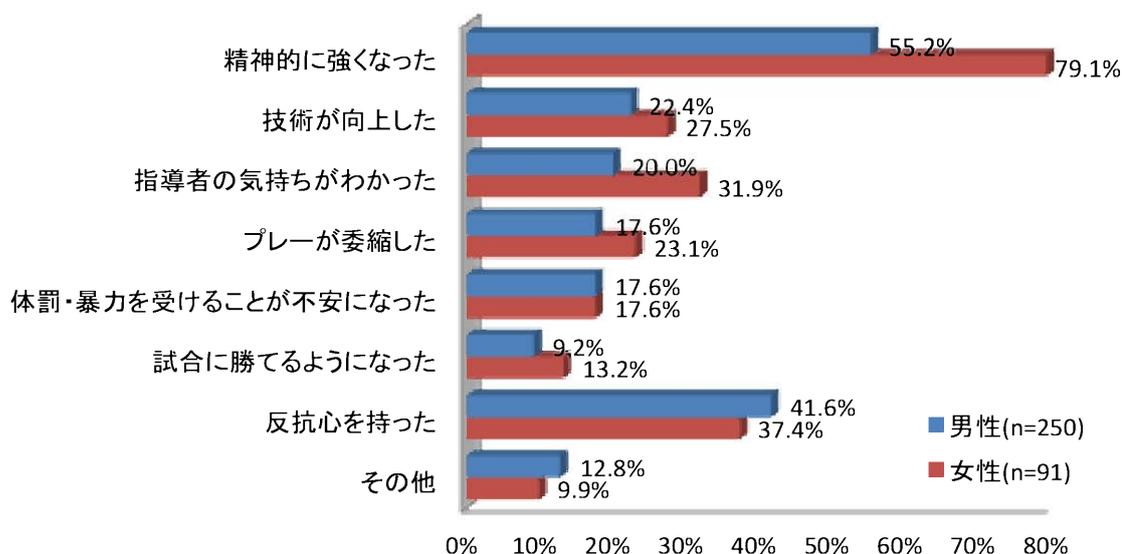


図2-10. 体罰を受けたその後どうなったか (男女別)

3-2-6：運動部活動中の体罰・暴力は必要か

運動部活動中の体罰の必要有無については、59.6%が「必要とは思わない」とする一方で、39.5%が「必要な場合がある」と考えていることが示された（図2-11）。男女別に見てみると、体罰が必要と考えているのは、男性（44.7%）で全体（39.5%）、女性（31.9%）に比べて高い割合を示していた（図2-12）。

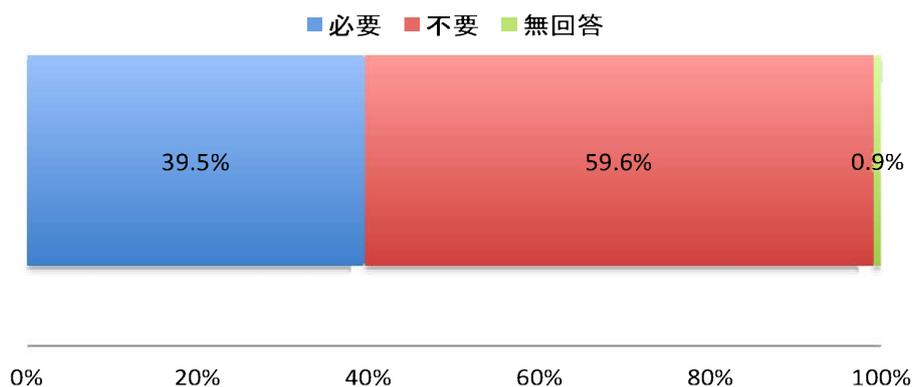


図2-11. 体罰・暴力の必要性有無 (n=2883)

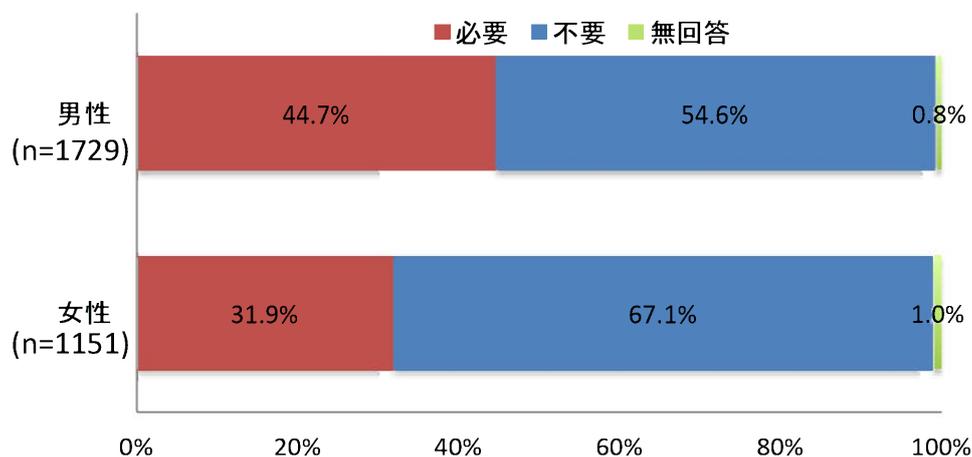


図2-12. 体罰・暴力の必要性有無 (男女別)

3-2-6-1 : 体罰経験有無別の分析

体罰・暴力の必要有無について、体罰経験の有無で見たとところ、経験がある者で65.4%が「必要」と回答しているのに対して、体罰経験がない者では63.6%が体罰を「不要」と回答していた（図2-13）。

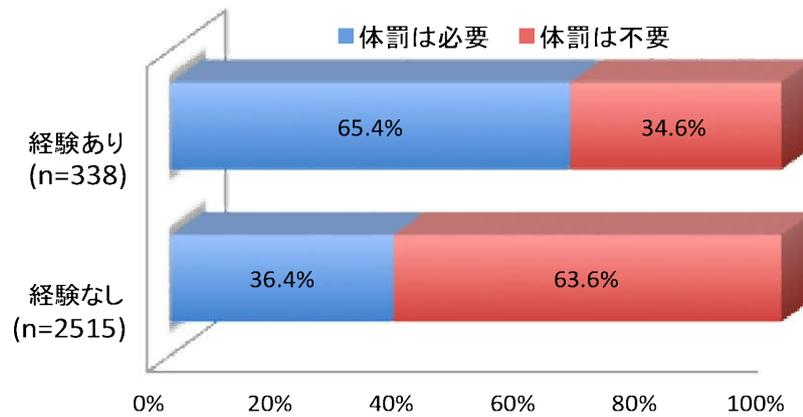


図2-13. 体罰・暴力の必要性有無(体罰経験有無別)

3-2-7：体罰・暴力が必要なのはどんな場面か

「指導上体罰・暴力が必要な場合とはどんな場合だと思いますか」（複数回答可）と質問したところ、「危険な行為をした場合」（53.3%）が最も高い割合を示した（図2-14）。そのほか、「礼節が守れない場合」（37.8%）、「日常生活で不適切行為があった場合」（36.0%）、「チームの規律を乱した場合」（33.9%）の順で高い割合を示した（図2-14）。このような傾向は男女別でも同様であった（図2-15）。

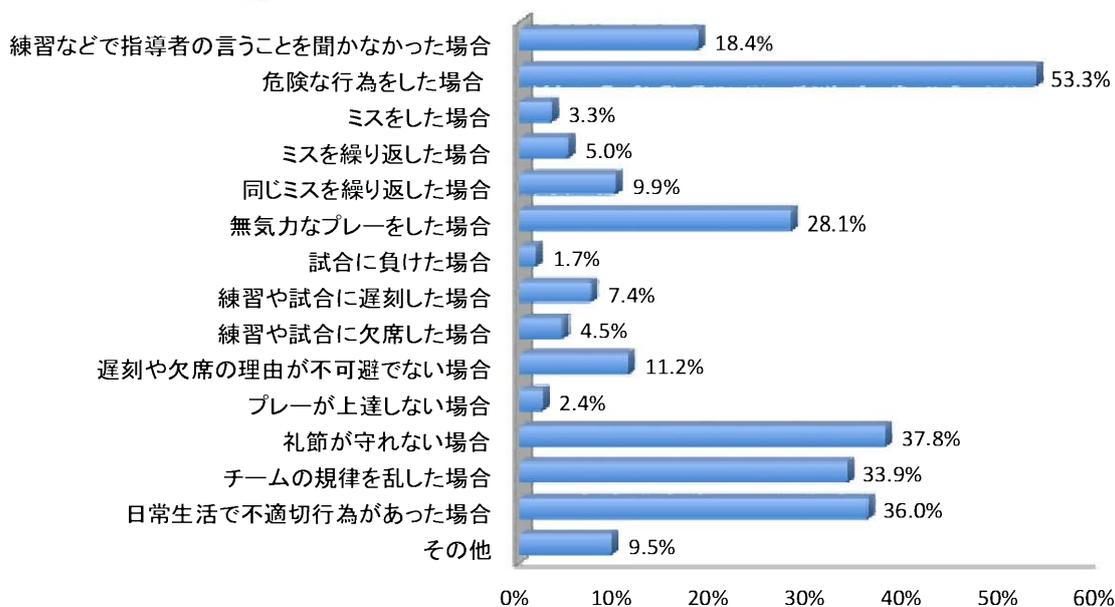


図2-14. 体罰・暴力の必要なのはどんな場面か(n=1140)

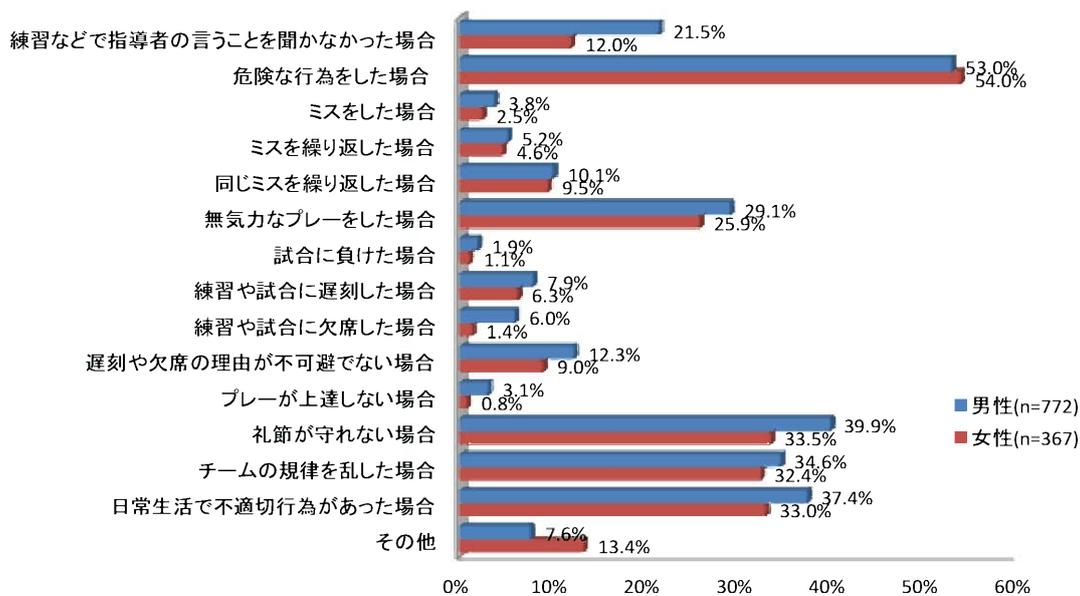


図2-15. 体罰・暴力の必要なのはどんな場面か(男女別)

3-2-8：将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか

運動部所属経験者に「将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか」を尋ねたところ、一般学生では、将来指導者になりたい学生は17.7%（「強くそう思う」4.3%、「そう思う」13.4%）であり、44.7%が指導者を希望していない（図2-16）。男女別に見ると、指導者になりたいと考えている学生は男性の方が女性に比べて多いことが示された（図2-17）。

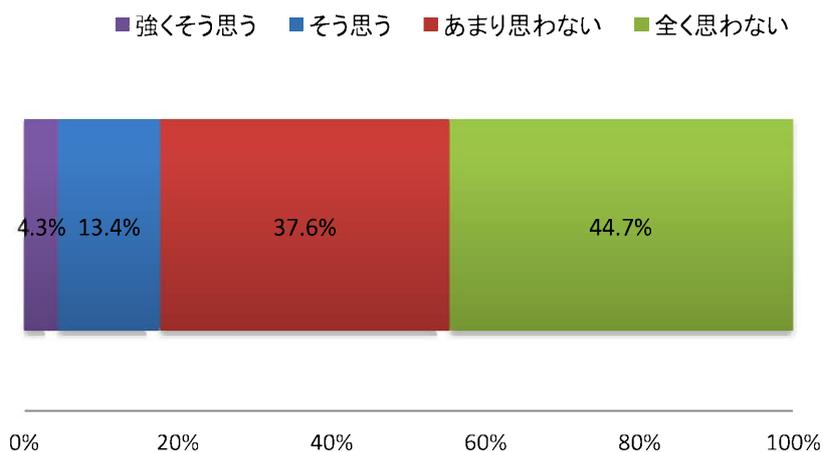


図2-16. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか

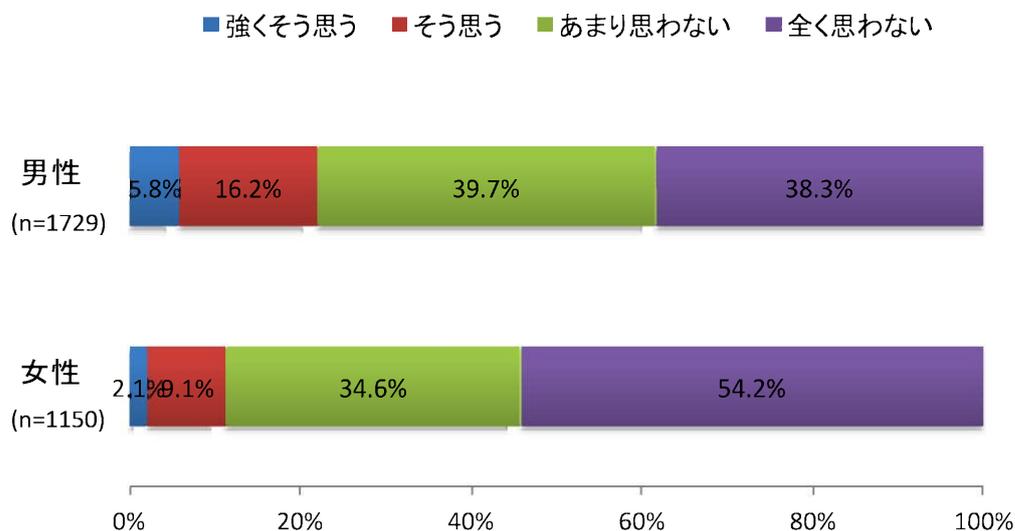


図2-17. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか(男女別)

3-3：体育系専攻学生群

本章では、体育系学部・学科の学生対象に、体罰にかかる調査結果をまとめた。

3-3-1：体罰経験の有無

体罰経験の有無は、31.2%の学生が経験ありと回答し、およそ7割の学生が経験なしと回答していた（図3-1）。男女別では、体罰経験ありと回答したのは、男性（n=289）が32.2%であるのに対し、女性（n=99）では28.3%であった（図3-2）。

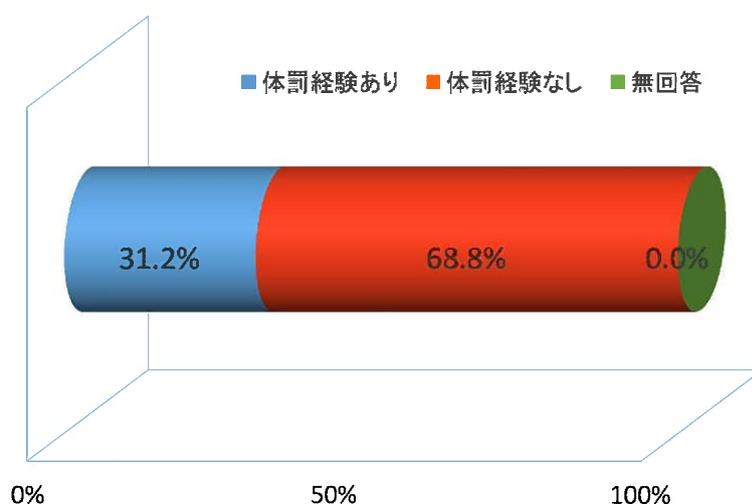


図 3-1. 体罰経験の有無（n=388）

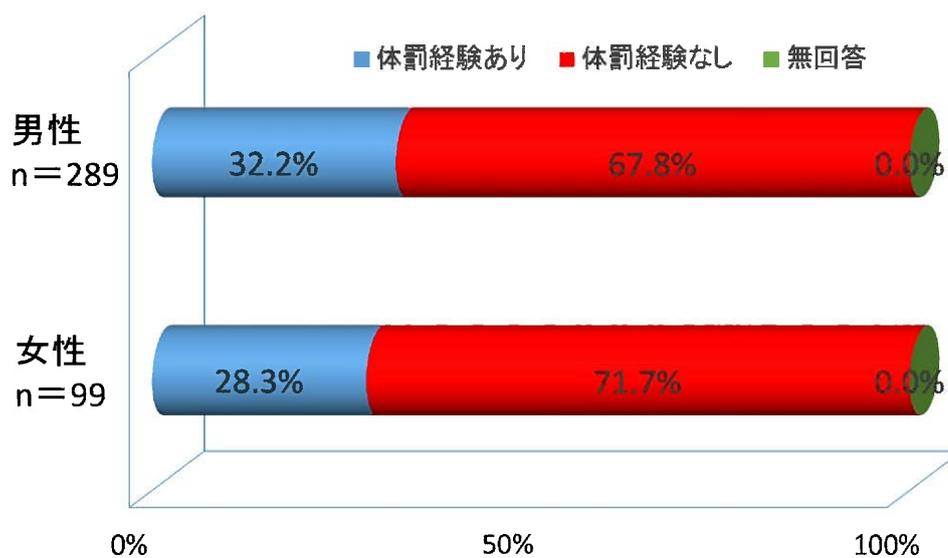


図 3-2. 体罰経験の有無（男女別）

3-3-2：体罰を受けた学校期

「体罰を受けた経験がある」と回答した者に、体罰を受けた学校期はいつだったかを尋ねた（複数回答可）。その結果、小学校期が28.1%、中学校期が50.4%、高校期が68.6%、大学期が13.2%となっており、高校期で体罰を受けたと回答する学生が最も多かった（図3-3）。男女別に見てみると、女性では、中学校期で6割以上と一番多くなっており、男性では、高校期で7割以上と一番多くなっていた（図3-4）。

また、小学校期でもおよそ3割の学生が体罰の経験有りと回答しており、心身ともに未成熟かつ未発達な成長段階における体罰が成長過程に及ぼす影響が心配される場所である。なお、大学期ではほとんど体罰の経験が無いことが示された。

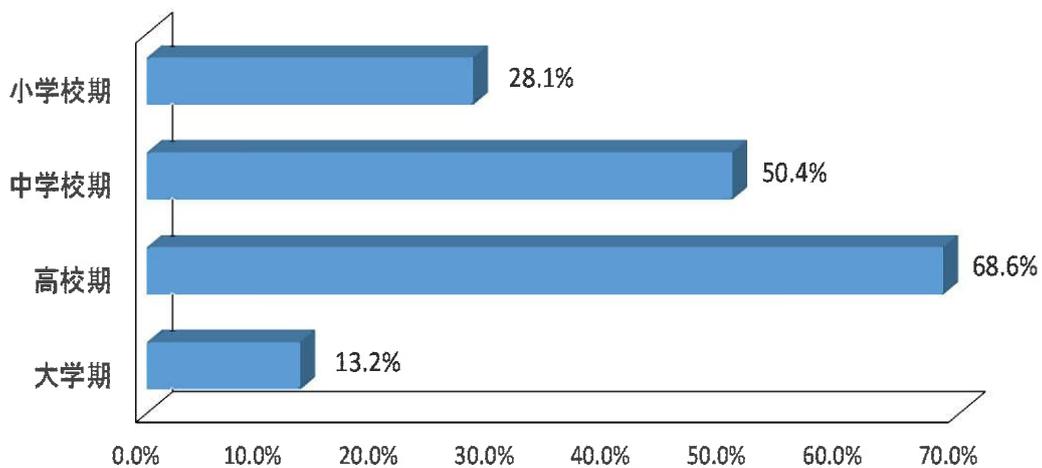


図 3-3. 体罰を受けた学校期（複数回答可／n=121）

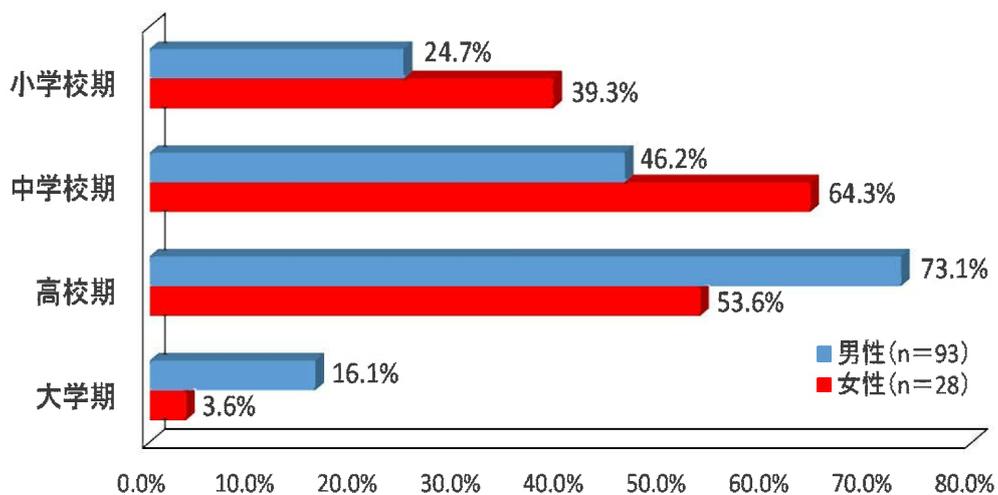


図 3-4. 体罰を受けた学校期（男女別）

3-3-3：体罰の頻度

体罰の頻度で最も多かったのは、「週に2～3回」（30.3%）であり、次いで「数ヶ月に1回くらい」（29.4%）、「月1回くらい」（19.3%）であり、これらで全体の約8割を占めていた（図3-5）。男女別の体罰の頻度では、女性において、「週に2～3回」と答えた学生が46.4%と一番高い割合となっていた（図3-6）。

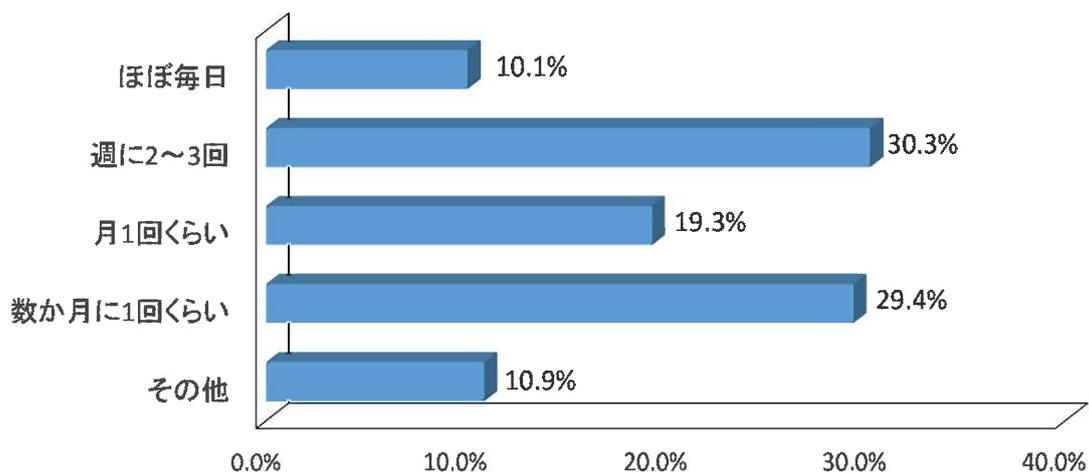


図 3-5. 体罰の頻度 (n=119)

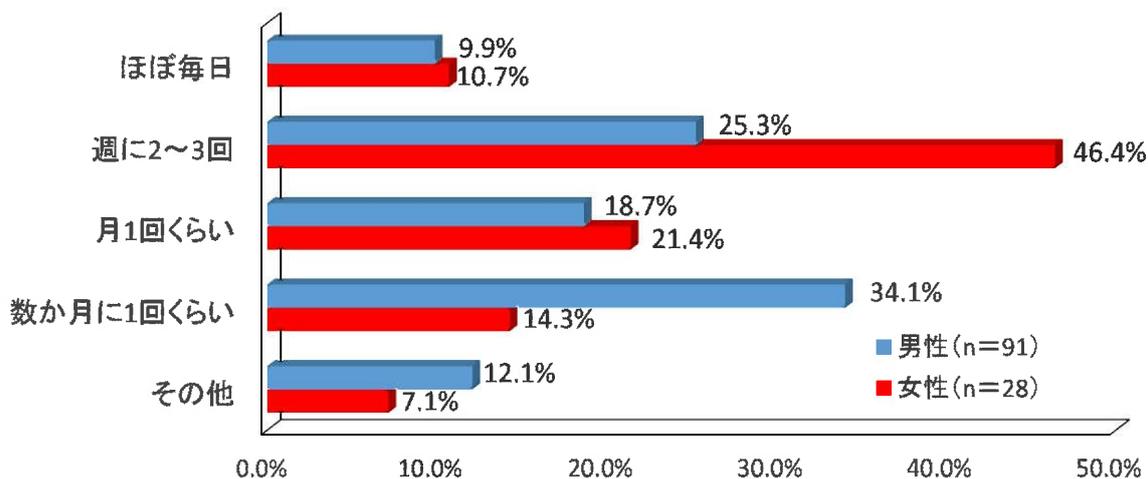


図 3-6. 体罰の頻度 (男女別)

3-3-4 : 1回に行われる体罰・暴力の回数

1回に行われる体罰・暴力の回数では、「2～3回」(38.3%)が最も多く、次いで「1回」(31.7%)という結果となった(図3-7)。男女別に見ても、「2～3回」が男性34.8%、女性50.0%と高い割合であった(図3-8)。

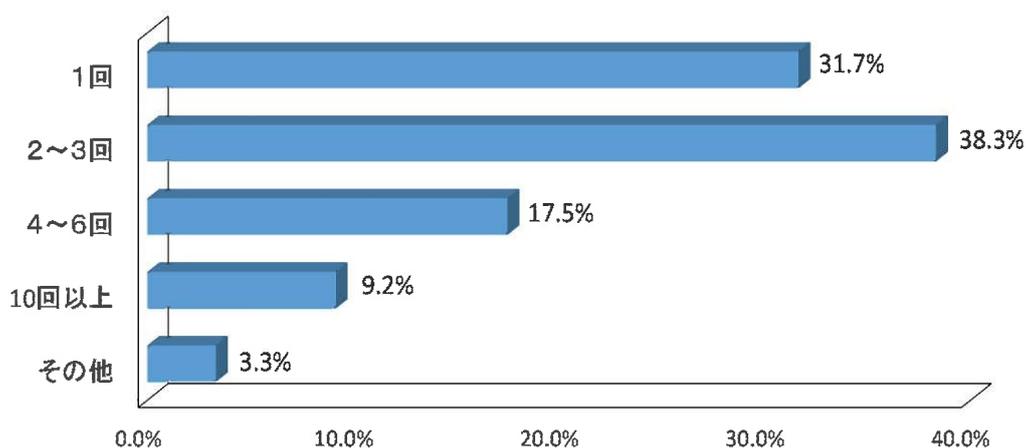


図 3-7. 体罰の回数 (n=120)

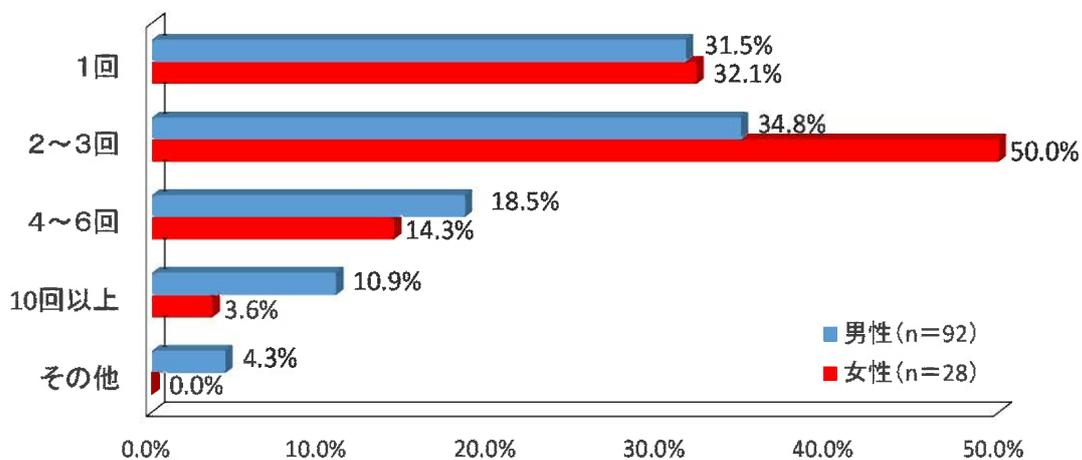


図 3-8. 体罰の回数 (男女別)

3-3-5 : 体罰を受けたその後どうなったか

「体罰を受けたその後」について回答を求めた（複数回答可）。その結果、「精神的に強くなった（59.5%）」とする回答が最も多かった一方で、38.0%が「反抗心を持った」としている（図3-9）。男女別に見てみると、男性において「精神的に強くなった」（62.4%）や「技術が向上した」（26.9%）、「指導者の気持ちが分かった」（23.7%）、「試合に勝てるようになった」（18.3%）という肯定的にとらえる学生が女性よりも高い割合となった（図3-10）。

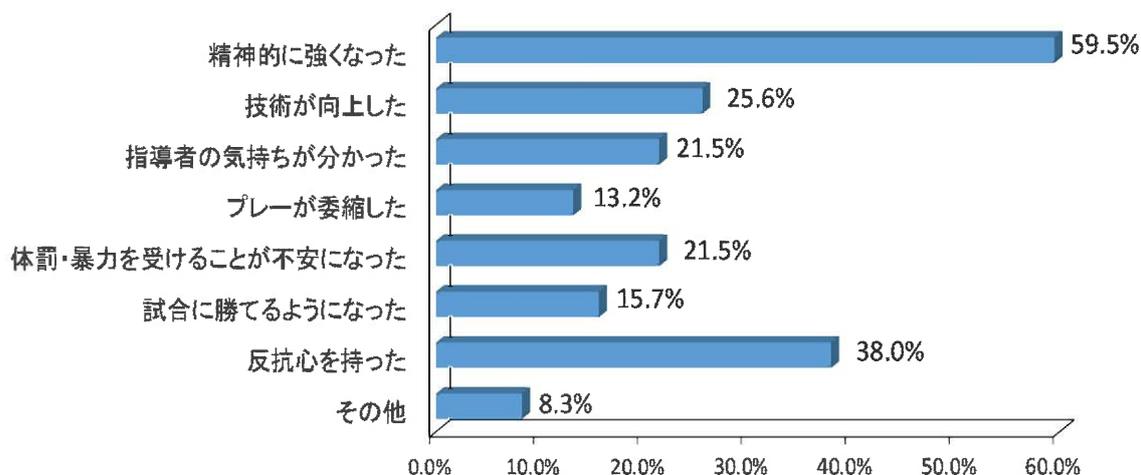


図 3-9. 体罰を受けたその後どうなったか（複数回答可／n=121）

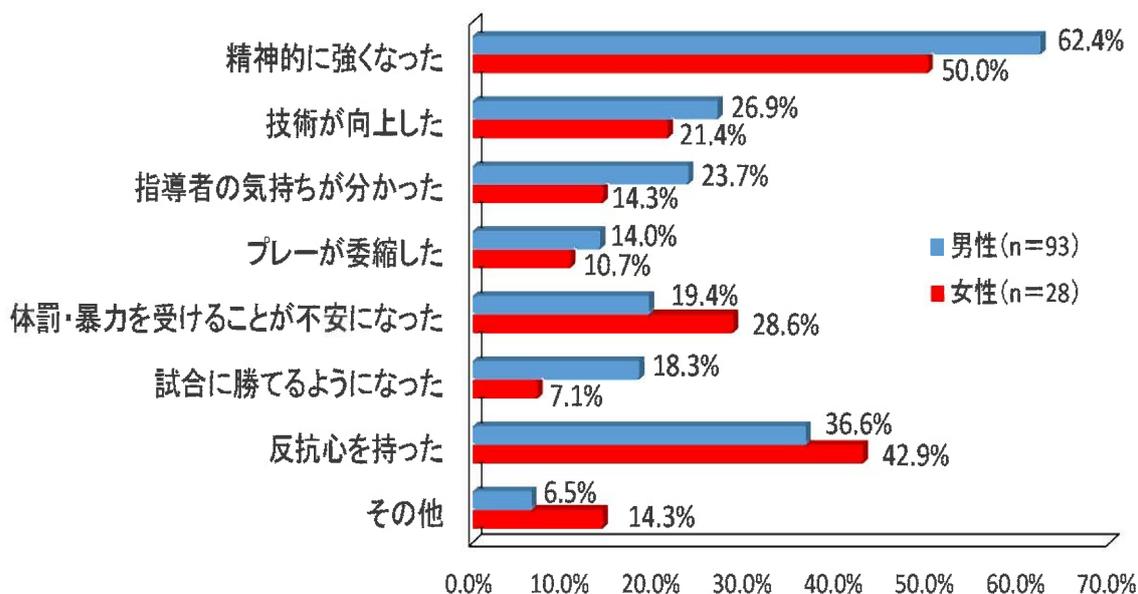


図 3-10. 体罰を受けたその後どうなったか（男女別）

3-3-6 : 運動部活動中の体罰・暴力は必要か

運動部活動中の体罰の必要有無については、56.4%が「必要だとは思わない」とする一方で、36.6%が「必要な場合がある」と考えていることが示された(図3-11)。男女別に見ると、体罰が必要と考えているのは、男性が40.5%となっており、女性(25.3%)よりも高い割合を示した(図3-12)。

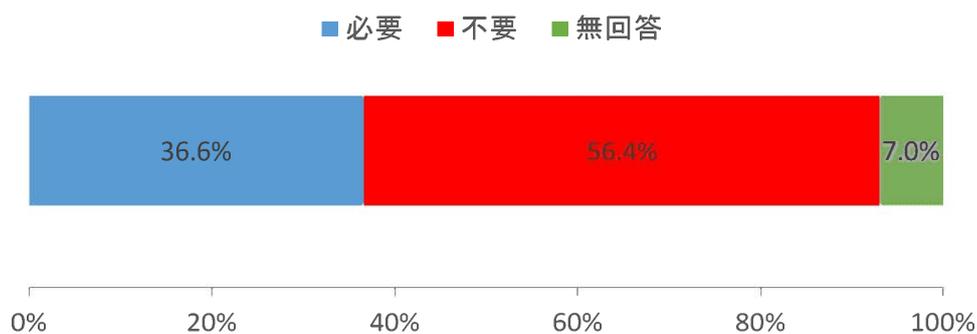


図 3-11. 体罰・暴力の必要有無 (n=388)

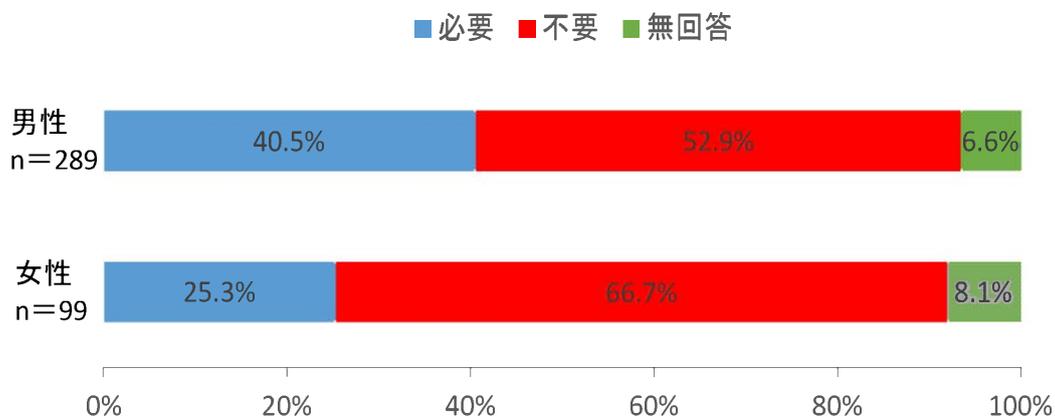


図 3-12. 体罰・暴力の必要有無 (男女別)

3-3-6-1：体罰経験有無別の分析

体罰・暴力の必要有無について、体罰経験の有無で見たところ、経験がある者で52.9%が「必要」と回答しているのに対して、体罰経験がない者では32.6%と低い割合となっていた（図3-13）。

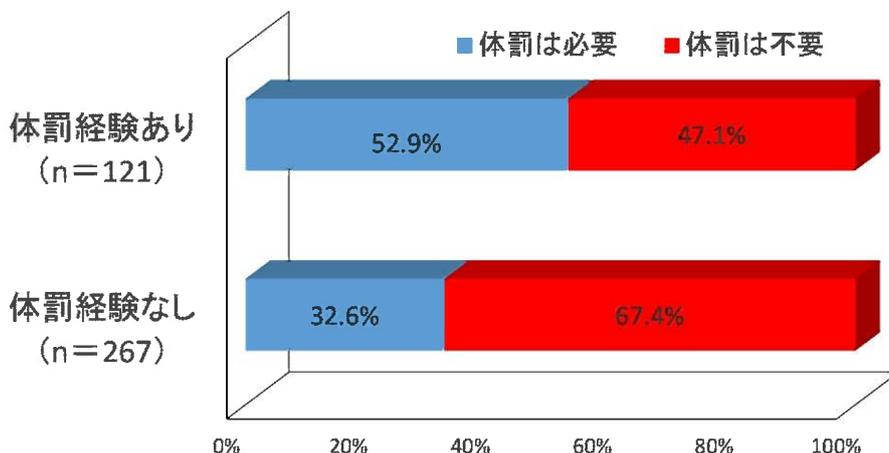


図 3-13. 体罰・暴力の必要有無（体罰経験有無別）

3-3-7：体罰・暴力が必要なのはどんな場面か

「指導上体罰・暴力が必要な場合とはどんな場合だと思いますか」（複数回答可）と質問したところ、「礼節が守れない場合」（53.5%）、「チームの規律を乱した場合」（52.8%）、「日常生活で不適切行為があった場合」（50.7%）、「危険な行為をした場合」（46.5%）が高い割合を示した（図3-14）。

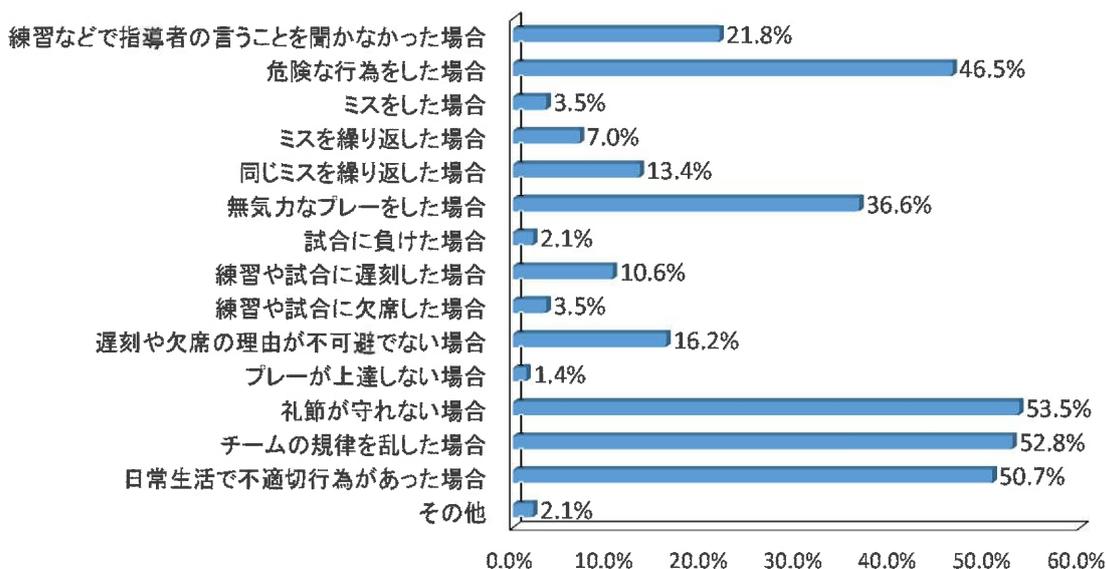


図 3-14. 体罰・暴力が必要なのはどんな場面か（複数回答可／n=142）

3-3-8：将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか

運動部所属経験者に「将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか」を尋ねたところ、将来指導者になりたい学生は64.1%（「強くそう思う」19.3%、「そう思う」44.8%）であった（図3-15）。男女別に見ると、指導者になりたいと考えている学生は、男性よりも女性に多いことが示された（図3-16）。

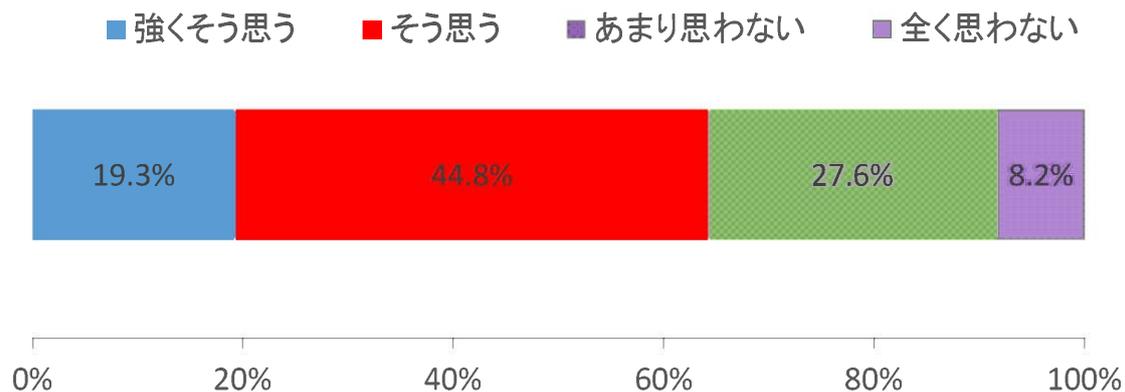


図 3-15. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか (n=388)

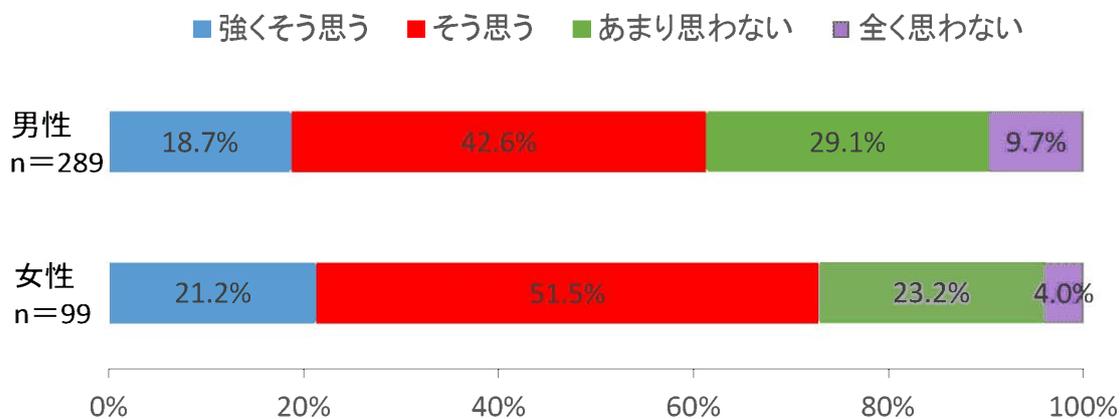


図 3-16. 将来運動部活動等のスポーツ指導者になりたいか (男女別)

4. 資料

- ・ 集計表
- ・ 共同研究参加大学募集要項
- ・ 調査票

5. 協力校・協力者一覧（順不同）

武蔵野美術大学、長崎純心大学、芝浦工業大学、聖隷クリストファー大学、
大東文化大学、南山大学、杏林大学、文教大学、九州地方 A 短期大学、関東地方 B 大学、
近畿地方 C 大学、九州地方 D 大学、関東地方 E 大学、近畿地方 F 短期大学、
関東地方 G 大学

6. ワーキング・グループ委員一覧

小林勝法（文教大学）
北 徹朗（武蔵野美術大学）
高橋宗良（杏林大学）
中山正剛（別府大学短期大学部）

集計表1(運動部経験者:全体 3,638人)

		全体						
		計		男		女		
体罰経験	計	3,638	100.0%	2,503	100.0%	1,417	100.0%	
	無回答	11	0.3%	7	0.3%	6	0.4%	
	無し	2,881	79.2%	1,946	77.7%	1,225	86.5%	
	有り	746	20.5%	550	22.0%	186	13.1%	
	小学校	214	28.7%	150	27.3%	60	32.3%	
	中学校	441	59.1%	315	57.3%	119	64.0%	
	高校	403	54.0%	298	54.2%	98	52.7%	
	大学	43	5.8%	39	7.1%	4	2.2%	
	体の計	738	100.7%	546	100.0%	189	100.0%	
	罰頻度	ほぼ毎日	74	10.0%	44	8.1%	29	15.3%
	・暴力	週に2~3回	198	26.8%	128	23.4%	67	35.4%
		月1回くらい	169	22.9%	127	23.3%	39	20.6%
		数ヶ月に1回くらい	197	26.7%	162	29.7%	34	18.0%
		その他	105	14.2%	85	15.6%	20	10.6%
	回数	計	738	100.0%	544	100.0%	186	100.0%
の	1回	264	35.8%	208	38.2%	56	30.1%	
	2~3回	301	40.8%	210	38.6%	87	46.8%	
	4~6回	91	12.3%	65	11.9%	24	12.9%	
	10回以上	45	6.1%	31	5.7%	12	6.5%	
	その他	37	5.0%	30	5.5%	7	3.8%	
受けた影響	精神的に強くなった	436	58.4%	299	54.4%	136	73.1%	
・暴力を	技術が向上した	168	22.5%	113	20.5%	52	28.0%	
	指導者の気持ちがわかった	148	19.8%	99	18.0%	49	26.3%	
	プレーが委縮した	133	17.8%	92	16.7%	40	21.5%	
	体罰・暴力を受けることが不安になった	120	16.1%	83	15.1%	37	19.9%	
	試合に勝てるようになった	80	10.7%	56	10.2%	24	12.9%	
	反抗心を持った	264	35.4%	204	37.1%	60	32.3%	
	その他	91	12.2%	73	13.3%	18	9.7%	
指導上の体罰・暴力	計	3638	100.0%	2503	100.0%	1417	100.0%	
	無回答	65	1.8%	130	5.2%	21	1.5%	
	必要だとは思わない	1488	40.9%	1080	43.1%	942	66.5%	
	必要だと思う	2085	57.3%	1293	51.7%	454	32.0%	
	練習などで指導者の言うことを聞かなかった場合	297	14.2%	244	18.9%	53	11.7%	
	危険な行為をした場合	819	39.3%	571	44.2%	248	54.6%	
	ミスをした場合	47	2.3%	37	2.9%	10	2.2%	
	ミスを繰り返した場合	84	4.0%	60	4.6%	23	5.1%	
	同じミスを繰り返した場合	175	8.4%	127	9.8%	48	10.6%	
	無気力なプレーをした場合	473	22.7%	332	25.7%	116	25.6%	
	試合に負けた場合	103	4.9%	98	7.6%	5	1.1%	
	練習や試合に遅刻した場合	50	2.4%	20	1.5%	30	6.6%	
	練習や試合に欠席した場合	70	3.4%	62	4.8%	8	1.8%	
	遅刻や欠席の理由が不可避でない場合	196	9.4%	153	11.8%	43	9.5%	
	プレーが上達しない場合	42	2.0%	37	2.9%	5	1.1%	
	礼節が守れない場合	615	29.5%	458	35.4%	157	34.6%	
	チームの規律を乱した場合	589	28.2%	431	33.3%	158	34.8%	
	日常生活で不適切行為があった場合	611	29.3%	452	35.0%	159	35.0%	
	その他	124	5.9%	71	5.5%	53	11.7%	
運動部活動等のスポーツ指導者希望	計	3635	100.0%	2415	100.0%	1186	100.0%	
	強くそう思う	366	10.1%	267	11.1%	92	7.8%	
	そう思う	753	20.7%	550	22.8%	192	16.2%	
	あまり思わない	1309	36.0%	883	36.6%	417	35.2%	
	全く思わない	1207	33.2%	715	29.6%	485	40.9%	

集計表2(運動部経験者:一般学生 2,883人)

		一般学生						
		計		男		女		
体罰経験	計	2,883	100.0%	1,729	100.0%	1,151	100.0%	
	無回答	5	0.2%	2	0.1%	3	0.3%	
	無し	2536	88.0%	1477	85.4%	1057	91.8%	
	有り	342	11.9%	250	14.5%	91	7.9%	
	小学校	99	28.9%	65	26.0%	34	37.4%	
	中学校	205	59.9%	146	58.4%	58	63.7%	
	高校	165	48.2%	118	47.2%	47	51.6%	
	大学	6	1.8%	4	1.6%	2	2.2%	
	体の計	341	100.0%	248	100.0%	93	100.0%	
	罰の頻度	ほぼ毎日	32	9.4%	17	6.9%	15	16.1%
	・暴力	週に2~3回	96	28.2%	66	26.6%	30	32.3%
		月1回くらい	82	24.0%	62	25.0%	20	21.5%
		数ヶ月に1回くらい	84	24.6%	65	26.2%	19	20.4%
		その他	47	13.8%	38	15.3%	9	9.7%
	体の回数	計	339	100.0%	248	100.0%	91	100.0%
暴力の	1回	147	43.4%	116	46.8%	31	34.1%	
	2~3回	131	38.6%	95	38.3%	36	39.6%	
	4~6回	30	8.8%	15	6.0%	15	16.5%	
	10回以上	14	4.1%	9	3.6%	5	5.5%	
	その他	17	5.0%	13	5.2%	4	4.4%	
体罰・暴力を受けた影響	精神的に強くなった	210	61.4%	138	55.2%	72	79.1%	
	技術が向上した	81	23.7%	56	22.4%	25	27.5%	
	指導者の気持ちがわかった	79	23.1%	50	20.0%	29	31.9%	
	プレーが委縮した	65	19.0%	44	17.6%	21	23.1%	
	体罰・暴力を受けることが不安になった	60	17.5%	44	17.6%	16	17.6%	
	試合に勝てるようになった	35	10.2%	23	9.2%	12	13.2%	
	反抗心を持った	138	40.4%	104	41.6%	34	37.4%	
	その他	41	12.0%	32	12.8%	9	9.9%	
指導上の体罰・暴力	計	2883	100.0%	1729	100.0%	1151	100.0%	
	無回答	25	0.9%	13	0.8%	12	1.0%	
	必要だとは思わない	1718	59.6%	944	54.6%	772	67.1%	
	必要だと思う	1140	39.5%	772	44.7%	367	31.9%	
		練習などで指導者の言うことを聞かなかった場合	210	18.4%	166	21.5%	44	12.0%
		危険な行為をした場合	608	53.3%	409	53.0%	198	54.0%
		ミスをした場合	38	3.3%	29	3.8%	9	2.5%
		ミスを繰り返した場合	57	5.0%	40	5.2%	17	4.6%
		同じミスを繰り返した場合	113	9.9%	78	10.1%	35	9.5%
		無気力なプレーをした場合	320	28.1%	225	29.1%	95	25.9%
		試合に負けた場合	19	1.7%	15	1.9%	4	1.1%
		練習や試合に遅刻した場合	84	7.4%	61	7.9%	23	6.3%
		練習や試合に欠席した場合	51	4.5%	46	6.0%	5	1.4%
		遅刻や欠席の理由が不可避でない場合	128	11.2%	95	12.3%	33	9.0%
		プレーが上達しない場合	27	2.4%	24	3.1%	3	0.8%
		礼節が守れない場合	431	37.8%	308	39.9%	123	33.5%
		チームの規律を乱した場合	386	33.9%	267	34.6%	119	32.4%
		日常生活で不適切行為があった場合	410	36.0%	289	37.4%	121	33.0%
		その他	108	9.5%	59	7.6%	49	13.4%
運動部活動等のスポーツ指導者希望	計	2882	100.0%	1729	100.0%	1150	100.0%	
	強くそう思う	125	4.3%	100	5.8%	24	2.1%	
	そう思う	385	13.4%	280	16.2%	105	9.1%	
	あまり思わない	1084	37.6%	686	39.7%	398	34.6%	
	全く思わない	1288	44.7%	663	38.3%	623	54.2%	

集計表3(運動部経験者:体育系専攻学生 388人)

		体育系専攻学生						
		計		男		女		
体罰経験	計	388	100.0%	289	100.0%	99	100.0%	
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	無し	267	68.8%	196	67.8%	71	71.7%	
	有り	121	31.2%	93	32.2%	28	28.3%	
	小学校	34	28.1%	23	24.7%	11	39.3%	
	中学校	61	50.4%	43	46.2%	18	64.3%	
	高校	83	68.6%	68	73.1%	15	53.6%	
	大学	16	13.2%	15	16.1%	1	3.6%	
	体の計	119	100.0%	91	100.0%	28	100.0%	
	罰頻度	ほぼ毎日	12	10.1%	9	9.9%	3	10.7%
	・暴力	週に2~3回	36	30.3%	23	25.3%	13	46.4%
		月1回くらい	23	19.3%	17	18.7%	6	21.4%
		数ヶ月に1回くらい	35	29.4%	31	34.1%	4	14.3%
		その他	13	10.9%	11	12.1%	2	7.1%
	回数計	120	100.0%	92	100.0%	28	100.0%	
暴力の	1回	38	31.7%	29	31.5%	9	32.1%	
	2~3回	46	38.3%	32	34.8%	14	50.0%	
	4~6回	21	17.5%	17	18.5%	4	14.3%	
	10回以上	11	9.2%	10	10.9%	1	3.6%	
	その他	4	3.3%	4	4.3%	0	0.0%	
体罰・暴力を受けた影響を	精神的に強くなった	72	59.5%	58	62.4%	14	50.0%	
	技術が向上した	31	25.6%	25	26.9%	6	21.4%	
	指導者の気持ちがわかった	26	21.5%	22	23.7%	4	14.3%	
	プレーが委縮した	16	13.2%	13	14.0%	3	10.7%	
	体罰・暴力を受けることが不安になった	26	21.5%	18	19.4%	8	28.6%	
	試合に勝てるようになった	19	15.7%	17	18.3%	2	7.1%	
	反抗心を持った	46	38.0%	34	36.6%	12	42.9%	
その他	10	8.3%	6	6.5%	4	14.3%		
指導上の体罰・暴力	計	388	100.0%	289	100.0%	99	100.0%	
	無回答	27	7.0%	19	6.6%	8	8.1%	
	必要だとは思わない	219	56.4%	153	52.9%	66	66.7%	
	必要だと思う	142	36.6%	117	40.5%	25	25.3%	
	練習などで指導者の言うことを聞かなかった場合	31	21.8%	29	24.8%	2	8.0%	
	危険な行為をした場合	66	46.5%	57	48.7%	9	36.0%	
	ミスをした場合	5	3.5%	4	3.4%	1	4.0%	
	ミスを繰り返した場合	10	7.0%	7	6.0%	3	12.0%	
	同じミスを繰り返した場合	19	13.4%	17	14.5%	2	8.0%	
	無気力なプレーをした場合	52	36.6%	42	35.9%	10	40.0%	
	試合に負けた場合	3	2.1%	2	1.7%	1	4.0%	
	練習や試合に遅刻した場合	15	10.6%	15	12.8%	0	0.0%	
	練習や試合に欠席した場合	5	3.5%	5	4.3%	0	0.0%	
	遅刻や欠席の理由が不可避でない場合	23	16.2%	20	17.1%	3	12.0%	
	プレーが上達しない場合	2	1.4%	2	1.7%	0	0.0%	
礼節が守れない場合	76	53.5%	66	56.4%	10	40.0%		
チームの規律を乱した場合	75	52.8%	61	52.1%	14	56.0%		
日常生活で不適切行為があった場合	72	50.7%	60	51.3%	12	48.0%		
その他	3	2.1%	2	1.7%	1	4.0%		
運動部活動等のスポーツ指導者希望	計	388	100.0%	289	100.0%	99	100.0%	
	強くそう思う	75	19.3%	54	18.7%	21	21.2%	
	そう思う	174	44.8%	123	42.6%	51	51.5%	
	あまり思わない	107	27.6%	84	29.1%	23	23.2%	
	全く思わない	32	8.2%	28	9.7%	4	4.0%	

共同研究参加大学募集要項

研究課題「運動部活動指導の実態調査と指導者養成」

1. 研究の趣旨

本連合は、スポーツ指導における体罰・暴力をはじめとする人権侵害を根絶させ、日本国民が普くスポーツ文化を享受することを目指しています。文部科学省が示した「運動部活動での指導のガイドライン」（2013年）に準拠したチェックリストを作成し、本連合のウェブサイトで公開しています。つきましては、このチェックリストを利用した2つの共同研究に参加する大学を募集します。

いくつかの大学やマスコミの調査によりますと、体罰・暴力を受けた経験のある学生ほど体罰・暴力を容認する傾向があることが示されています。大学運動部での人権侵害を根絶させるためにも学生の意識や実態を把握しておくことは必要ですし、学生が将来、運動部などの指導者となることを考えると、学生時代からこの問題について正しく認識させておくことが重要です。多くの会員の参加を期待します。

2. 研究期間

研究1（質問紙調査） 平成25年9月1日から10月31日までの2ヶ月間。

研究2（ワークショップ） 平成25年9月1日から11月30日までの3ヶ月間。

3. 参加条件

(1) 参加希望者は、本連合の会員（専任の教職員あるいは研究員）であること。

* 個人会員の場合は研究実施校での許可を取ってください。

(2) 研究1か2のどちらか一方、あるいは両方に参加できます。

(3) 研究経費（質問紙印刷や送料など）は参加者負担となります。

(4) 研究結果を大学紀要などで発表することは差し支えありません。

4. 研究1（質問紙調査）の実施方法

(1) 質問紙を本連合ウェブサイト (<http://www.daitairen.or.jp>) よりダウンロードし、必要部数を印刷し、実施してください。

(質問項目の追加は自由です。ただし、その場合はご自身で集計してください。)

(2) 回答済み質問紙は下記(6)まで送付してください。

(送料は負担してください。回答済み質問紙の返却を希望する場合は返信用封筒もご用意ください。)

あるいは、ご自身で回答データを入力し、それを送ってくださっても結構です。

(3) 回答の入力と集計結果はメール添付でお知らせしますので、学生指導にご活用ください。

- (4) 参加大学全ての回答を集計した結果もお知らせします。そして、この結果は、大学体育研究フォーラムや機関誌『大学体育』などで報告します。その際には、共同研究参加大学一覧も掲載します。
- (5) 参加申込方法
メールで以下の事項をお知らせください。
申込者氏名、メールアドレス、所属機関名・住所、本連合会員種別、実施予定時期
- (6) 参加申込・回答送付・お問い合わせ先
北徹朗（武蔵野美術大学） <kita@musabi.ac.jp>，

5. 研究2（ワークショップ）の実施方法

- (1) ワークショップは、運動部で指導的な立場にある学生や将来、運動部の指導者になりたいと考えている学生（教職課程など）を対象として、行うものです。
- (2) 「ワークショップ開催要項」を本連合ウェブサイト（<http://www.daitairen.or.jp>）よりダウンロードし、質問紙を必要部数印刷し、実施してください。
- (3) ワークショップの「実施報告書」（別紙参照）を下記まで送付してください。
- (4) 参加大学による実施報告会・検討会を大学体育研究フォーラム（2月開催、武蔵野美術大学）で行います。（参加は義務ではありません。）
- (5) 参加大学全ての報告をまとめた結果をお知らせします。そして、この結果は、大学体育研究フォーラムや機関誌『大学体育』などで報告します。その際には、共同研究参加大学一覧も掲載します。
- (6) 参加申込方法
メールで以下の事項をお知らせください。
申込者氏名、メールアドレス、所属機関名・住所、本連合会員種別、実施予定時期
- (7) 参加申込・報告書送付・お問い合わせ先
高橋宗良（杏林大学） <muneyosi@ks.kyorin-u.ac.jp>

以上

運動部活動等における体罰・暴力に関する調査報告書
2014年12月22日発行

公益社団法人全国大学体育連合
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-3-13 第2天台ビル303号
Tel (03) 3232-5738
Fax (03) 3232-5872